

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 11 月 12 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 22名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3890600145
事業所名	グループホーム小松の里
(ユニット名)	東通り
記入者(管理者)	
氏名	伊藤飛鳥(大森晋也)
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 20 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>○入所者一人ひとりが自立した生活を営むことができるよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供いたします。</p> <p>○一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供できるよう努めます。</p> <p>○主治医、協力病院と連携して、入居者が健康に生活できるよう援助します。</p> <p>○地域の人達と交流を図り、入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます。</p> <p>○市町村、地域の保健・医療・福祉サービスと連携して、総合的なサービスが提供できるよう努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○運営推進会議で検討報告する内容が、利用者家族全員に伝えられて、利用者家族及び地域の運営推進会議メンバーから意見や質問等を聞くことができるようになる。</p> <p>書面開催で2カ月に一度は、利用者全員の家族及び、運営推進会議メンバーさんへ報告をおこなった。職員の入職や退職についても、変更になるたびに、顔写真入りの職員紹介を送付して、把握できるように取り組んだ。</p> <p>○利用者全員の口腔内を確認する機会を増やすことが出来る。</p> <p>新たに大谷歯科医院の先生が往診に来てくれる事になり、ベッド上で口腔内の状況を聞く事ができ、口腔内のケアについて、個別に学び毎日のケアに役立てることが出来るようになったが、トラブルが出た利用者のみが対応となっていて、悪くなる前に見てもらおう事が課題となっている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設から15年目を迎える事業所は、窓や屋外から山々が眺められる自然豊かな場所に立地している。中庭の中央付近には、大きなケヤキが植えられ、落ち葉が地面を覆うなど、利用者や来訪者は季節を感じる事ができる。建物の東側にある畑では、季節に応じて、なすやきゅうり、ピーマンなどの旬の野菜が栽培され、訪問調査時点で玉ねぎの苗が植えられるなど、日々利用者は水やりや草引きをするなど、野菜の生長や収穫を楽しみにしている。また、事業所には犬と猫が飼育され、車いすの利用者が猫に触れながら声をかけるなど、可愛がりながら触れ合うことが楽しみとなり、利用者の穏やかな生活に繋がっている。さらに、母体法人は、地域において、医療や福祉、介護の総合的なサービスを幅広く展開し、状態の変化に応じて、病院への入院や他の施設への転居などの支援にも迅速に対応することができ、利用者や家族、職員の安心感に繋がっている。加えて、事業所に掲げている「あたたかく、さりげなく、気配り目配り」の目標を、職員は念頭に置いたサービス提供を心がけ、無理強いをすることなく、利用者の意思を尊重し、意識した支援に取り組んでいる。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所前の面接時、入所直後の会話、毎日の会話で把握に努めている。ケアプラン更新時にも聞き取りしている。	◎	/	○	入居前に、管理者等は利用者や家族と面談し、思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。入居後にも、日々の生活の中で、職員は利用者の思いなどを聞くように努め、ケース記録に記録して職員間で共有をしている。また、意思表示の難しい利用者には、表情やしぐさを観察して思いをくみ取るようにしている。さらに、職員の思い込みや決めつけてしまうことにより、利用者の思いの見落としや聞き逃がさないように、定期的に利用者ごとの担当職員を交代するようにしている。チラシを折ってゴミ箱を作る際に、利用者から「○○が食べたい」と思いや要望を聞くなど、職員は日々の会話に耳を傾けている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	生活歴を家族より聞き、会話の中から表情や返答内容で、思いを感じ取るようにしている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	窓越し面会やリモート面会から、居室内面会と外出が出来る機会を増やし、家族を中心に思いを話し合っている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプランの本人意向に記載することで、共有している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	いろいろな職員の意見を聞きながら、決めつけないように把握している。定期的に担当職員を交代して気づきを増やしている。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前の面接時、入所直後の会話、毎日の会話で把握に努めている。電話の都度、施設での出来事を伝えて、家族を中心に聞き取りを行っている。	/	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりなどの聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から、サービスの利用経緯や状況等の情報を聞くほか、病院の担当者からサマリーなどの情報を提供してもらうこともある。把握した情報はアセスメントシートに記録し、職員間で共有をしている。入居後に、新たに知り得た情報はケース記録に記載し、申し送りなどを活用して職員間で共有をしている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントを使い、見直し把握している。出来る事を行ってもらい、過度に手伝わず、出来る事を見極める事に努めている。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	介護記録に気づきを記載して、把握している。いつもと様子が違う時は、申し送りで共有している。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ケアプラン更新時に家族と話し合い、職員同士の会話からも色々な方向性を検討している。	/	/	○	介護保険の更新時等には、アセスメント情報や日々の関わりの中から把握した情報をもとに、ユニット会の中で話し合い、利用者の視点に立ってより良いサービスを検討している。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアプランのニーズへ記載する時に、良く出来ている事や出来る事を記載している。また、申し送りノートにも記載して皆で共有している。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ケアプラン作成前に、本人の思いや意向を確認している。訴えられない利用者の表情から予測している。	/	/	/	事前に利用者や家族の意見や意向を確認するとともに、主治医や看護師等から指示やアドバイスをもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、月1回実施するユニット会の中で、計画作成担当者を中心に職員間で意見やアイデアを出し合いながら話し合い、意見を取りまとめて介護計画を作成している。利用者や家族から出された意見等を反映して、利用者本位の計画作成に努めている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	面会時に確認したり、全利用者家族へ電話する時に、今の生活の様子を伝え、家族からも意見をもらえるように努めている。	◎	/	/			
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	馴染みの関係や、離床時の座席等、心地よいと思ってもらえる配慮をしている。昔の話などで記憶にも働きかけている。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍で中々家族と触れ合うことが出来ず、地域の人もホームへ入れない。家族のみ居室面会と外出が出来るようになってきた。	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	短期目標を記載して、実施記録を記入し、ユニット会で話し合っている。	/	/	/	◎ ユニット会で、介護計画の内容が検討され、職員間に周知され、情報を共有している。また、介護計画やアセスメントシートなどの情報が綴じられた利用者ごとの個別ファイルが各ユニットの事務所の棚に置かれ、職員はいつでも確認することができるようになっている。さらに、計画に沿ったサービスの実施状況は、ケア行動計画実施記録用紙に記載され、職員間で状況を把握しやすくなっている。また、日々の記録には、利用者が発した言葉のほか、普段と違う言動等も記録に残されている	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	短期目標を記載して、実施記録を記入し、毎日の確認と1カ月の状況確認をユニット会で話し合っている。いつもと違う様子や行動、発言は必ず記入している。	/	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	介護計画の期間に見直しをしている。入退院などの後は、継続できるか暫定プランから始める時もある。	/	/	/	◎	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	新たな要望や変化が見られない場合は、介護計画の期間に確認している。ユニット会で毎月1回は確認している。	/	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院後の再入所時や、心身状態に変化がある時は、見直しをしている。必要と感じる時は、暫定プランを作成するときがある。	/	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ユニット会を基本としているが、朝の申し送り時や、その後のユニットメンバーで適宜話している。緊急時は申し送りノートや気づきノートを使っている。	/	/	/	○	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	全員で集まれないので、ユニット内でメンバー間の情報共有が出来ている。	/	/	/	○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	コロナ対応で、全員が集まることを避けている。いつも一緒に仕事をしているユニットメンバーとユニット会のみ開催している。会議録を回覧して、申し送りノートも活用している。	/	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートを毎日確認して、サインをしている。受診時は病院へ送付したFAX用紙に、受診した内容を記載して、皆で共有している。パソコンで受診記録を閲覧できるようにまとめている。	◎	/	/	○	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その時にしたい事を、限られた職員数で、できるだけ叶えられる努力を日々行っている。全員に実施できない日もある。	/	/	/	○	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつづけている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴、排泄、更衣、食事場面で、選んでもらう機会を作っている。不安や混乱がある利用者へは、好まれるものを職員が勧めている。	/	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の生活リズムを優先して、ゆっくりと生活できるよう支援している。基本的な時間は決めて、タイミングを図りながらペースを見て合わせている。	/	/	/	○	
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が利用者の輪に入り、気の合う利用者テーブルを囲み雰囲気づくりをしている。	/	/	/	/	○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	スキンシップを行い表情の変化を見ながら支援している。	/	/	/	/	○
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	○	勉強会や朝の申し送りで、接遇マニュアルを意識して、言葉かけや態度を意識している。焦ってしまい言葉がきつくなる時がある。申し送りでも適宜意識している。小松の里の心がけ「あたたかく、さりげなく、気ばり目くばり」を意識しながら対応している。	◎	◎	○	○	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	他者から見えないような配慮や、露出が少なくなる配慮をしながら介助している。見守りを行う際に、戸が開いたままとなっている時がある。	/	/	/	○	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室前にノックを行い、入っても良いか確認してから出入りしている。	/	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に会社と職員でプライバシー保護の書類を交わして漏洩しないよう厳守している。	/	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	介護を行う場面でも、手伝ってもらった声かけや、教えてもらう態度で接している。職員が忙しいと感じる時でも、出来ることはお願いして助けられている。	/	/	/	日々の生活の中で、職員は声をかけて、利用者が料理の下ごしらえや野菜の水やりなどを手伝うこともあり、手伝ってもらった後には、必ず「ありがとうございました」などの感謝の気持ちを伝えている。日頃から、利用者同士の助け合いや支え合う場面も多く見られ、訪問調査日には、利用者がチラシで作ったゴミ箱とティッシュを他の利用者に渡したり、声をかけて、一緒に洗濯物をたたんだりする様子を見ることができた。また、職員は利用者同士の関係性を把握し、仲の良い利用者同士と一緒に過ごせるように配慮したり、言い合いなどのトラブルが発生しそうな場合には、職員が目配りをして早期に間に入り、否定せずに双方の話を聞いたりするなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が協働できる座席の配慮を行い、支えあう事を理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	その時の気持ちを考えながら、心地よく関係が良好になるように、支えあう関係ができるように、座席の配慮を行っている。利用者の方で他者の行動に不満が多い方が、否定したり怒ったりと、攻撃的になるため、狭い空間では難しいと感じる。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの原因を考え、双方が安心できるように、声かけを行っている。どちらの発言も否定しないように努めている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	日常の会話で、馴染みの関係がある人の名前が良く出てくるようになり、詳しく聞いて把握している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	利用が長くなった利用者は、施設内での馴染みの関係作りが出来ている。コロナで窓越し面会やリモート面会から居室内面会や外出と少し緩和出来始めたので、途切れないように配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外に出たい気持ちの時は、とりあえず戸外へ出るように対応している。全く出ようとされない利用者は、社員が誘っている。	○	○	○	感染対策が続き、一定の外出制限が設けられているものの、天気の良い日のほか、利用者から外出希望が出された場合には、中庭や事業所周辺を散歩したり、ベランダに出て外気浴をしたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、通院の送迎時には、管理者等が遠回りをして、車中から利用者が季節の花や海などの景色を眺められるような支援も行われている。さらに、制限はあるものの、家族との外出も可能となり、利用者に喜ばれている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ対応で社員と家族以外の外出支援は行っていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	申し送りや状況聞きながら、認知症を理解できるように、色々な対応を話し合い、検討をしている。	/	/	/	日々の申し送りなどの中で共有した利用者の情報をもとに、認知症の行動や心理症状、身体機能の低下等を職員間で話し合うとともに、看護師や理学療法士からアドバイスをもらい、認知症に関する理解を深めている。また、日々の支援の中で、職員は利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握し、着替えや入浴の洗身等のできることは時間が掛かっても自分でしてもらい、見守りやできない部分のサポートをするなどの待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	申し送りや状況聞きながら、認知症を理解できるように、看護師や理学療法士のアドバイスを参考に検討をしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事や出来そうなことの気づきを、職員同士で話し合い、できるだけ、行ってもらうようにしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	入所前の聞き取りも参考に、手先を使う事なども新たに行ってもらい、興味のあることや、積極的にやりたいことの把握に努めている。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、料理の下ごしらえ、お盆拭きなど、職員は声をかけ、利用者のできることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。また、脳トレや塗り絵、風船バレー、散歩、動物との触れ合い、野菜の世話や収穫、食べたい食事のデリバリーなど、利用者一人ひとりの楽しみごとを生活に取り入れ、張り合いや喜びのある暮らしができるよう取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	できることを、役割として行ってもらっている。食材の下ごしらえや家事仕事につながる事を、出来る状況に応じて行ってもらっている。脳トレ(手作り文字合わせ絵合わせ等)も高評価の様子。	◎	◎	◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	着たい服を着ていただき、着こんでしまう方や肌着を上に着てしまう方、重ね着をする方へ、さりげなく着替えてもらっている。	/	/	/	起床時に、職員は声かけや見守りを行い、自分で服を選んで着替え、身だしなみを整えることのできる利用者もいる。外出や行事の際に、自分で髪型を整えたり、化粧をしたりするなど、おしゃれを楽しむ利用者もいる。また、食べこぼしなどの衣服の汚れが見られた場合には、職員がさりげなく拭き取ったり、居室に移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。さらに、重度な状態の利用者にも、本人らしさが保てるように、家族が持参した好みの服を着たり、訪問理美容を利用して、利用者の好みの髪形に整えてもらったりするなどの支援も行われている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	近隣のパーマ屋に希望を伝えて、利用者が好まれる髪型になるよう支援している。持参されるお気に入りの服は使用してもらっている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者に聞くと不安や不穏になる場面が多く、社員が選んだ服を着てもらうことが主となっている。持ち込みされた馴染みの服から選んでいる。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	病院受診時は、利用者がよそ行きと感じている服を選んで、選んだ服に着替えてもらっている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく綺麗に整えている。間違えていても、無理強いしない対応をしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	近所の美容院が馴染みの関係となり、希望を聞きながら散髪してくれている。馴染みの店には外出禁止のため対応できていない。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	家族からも好みを聞き取り、本人の好まれる服など持ち込まれている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	下ごしらえから、音、匂いなど、食べる前から感じられる生活臭と、見た目や味など大切にしている。	/	/	/	各ユニットの職員が、栄養バランスなどを考慮した献立を作成し、職員が買い物に出かけて、利用者に調理の下ごしらえやお盆拭きなどを手伝ってもらいながら、朝食と夕食を職員が調理している。職員の人材不足もあり、昼食は副食のみ外注したレトルト食品の湯煎や盛り付けを行い、炊飯と汁物を合わせて、利用者に提供をしている。利用者の希望に応じて、朝食をパンに変更したり、店舗から寿司やピザなどをデリバリーしたり、誕生日会には、利用者が食べたい物を提供するなど、利用者に食事を楽しんでもらえるような支援にも努めている。入居時に、アレルギーの有無や苦手な食材を確認するとともに、日々の会話の中で聞いた苦手な食材や食べ残しなどを確認し、必要に応じて代替えの食材を提供している。飲み込みの悪い利用者には、彩りや見た目を意識しながら、食べやすいミキサー食や刻み食などの形態に対応をしている。利用者の個々の状態や習慣に応じて、食事量や水分摂取量に注意を払うとともに、食事やお茶等で補えない場合には、医師や家族と相談して、栄養補助食品を摂取してもらうこともある。食器類は、事業所で使いやすい物が用意され、茶碗やコップ、箸は、利用者により好みの色や柄を選んでもらっている。感染対策のため、食事の際に、職員は利用者とは別々の場所で見守りや食事介助を行い、別々の場所で食事を摂るようになっている。リビングに面したオープンキッチンから、利用者は調理の音や匂いを感じる事ができ、食事時の職員との会話を通して、食事が待ち遠しく思えるような雰囲気づくりが行われている。また、ユニット会を活用して、献立のバランスや調理方法等を職員間で話し合うとともに、必要に応じて、法人の栄養士に食事形態等の相談することもできる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	朝と夕はユニットでメニューを考え、リクエストを聞きながら献立を作り、できる方には、食材の下ごしらえを行ってもらえる支援をしている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	調理の下ごしらえや、後片付けを出来る利用者へお願いしている。買い物、調理、盛り付けは混乱や不安が多く、利用者から清潔不潔で文句も出るのでできない。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前の面接時にアレルギーや苦手な物を聞いている。生活が始まり、毎日の会話で聞き取りや、食べ残しを見て把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	昼食がレトルトになったため、今までより提供するメニューが大幅に少なくなっている。誕生日会を利用者の誕生日に合わせて行い、リクエスト食の提供は続けている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	嚥下や咀嚼を確認して、彩りや見た目を意識して、食べやすさの配慮も意識しながら、綺麗に盛り付けしている。ミキサー食の方にも、飲み込みやすい食事の時は、安全を確認して普通や刻みで出すこともある。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者のこだわりを優先して、利用者を選んでもらっている。使っている様子も確認している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	コロナ感染予防で、利用者と食卓を囲み一緒に食べることは行っていない。利用者の食べる様子はしっかりと確認して、さりげなくサポートするようにしている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理のにおいや音を大切に、ユニット内で朝と夕は調理している。配膳後も、意欲が高まるように声かけを行っている。食べる時間もその時々で、利用者のペースで行っている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分摂取量は、十分にとれるように気を付けている。食事やお茶で補えない時は、メイバランゼリーやエンシュワリキッドも活用している。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分摂取の少ない方には、好みの飲み物やお茶の時間に限らず回数を増やして出している。水分量が少ない日に、主治医へ相談して必要時は通院で点滴を行っている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員でバランスや調理方法を話し合い、ユニット単位でメニューを決めている。現在は栄養士の指示が必要な利用者はいない。必要時は西条市民病院の栄養士と連携を図る。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食中毒への予防や衛生管理は気を付けている。食事直前のテーブル消毒や手指消毒も毎回行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながる事を、研修や勉強会で学び理解している。大谷歯科往診で見て学ぶ機会も増えている。	/	/	/	職員は研修や勉強会で学ぶとともに、歯科医や歯科衛生士から助言を受けて、口腔ケアの必要性や重要性を理解している。毎食後に、職員は利用者へ声をかけ、洗面台に移動して歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りや磨き残しなどのサポートをするとともに、自分で口腔ケアをすることが難しい利用者には、スポンジブラシやガーゼなどの適切な口腔ケア用品を使用した介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、口腔内に異常が見られた場合には、訪問歯科診療や歯科受診に繋げている。さらに、義歯の管理が難しい利用者には、夕食後に預かり、洗浄剤に浸けて洗浄するなどの対応をしている。介助を必要とする利用者の口腔内の状況は把握することができていない。管理者から、「自分で歯磨きをしている利用者の中には、口の中を見せることを拒否する人もいるため、無理強いはいしていない。状態が悪くなる前に見せてもらえるように、日頃から声かけするなどの工夫をしていきたい」との話を聞くことができた。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診の依頼をしている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科往診時に、個別に気を付けるポイントを教えてもらっている。他の利用者へも学んだ知識を参考にしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	無理強いしないように、手入れを行っている。入れ歯洗浄剤も活用している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診を依頼している。どうしても拒否され自力で歯磨きする利用者には難しい。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	勉強会でトイレでの排泄の重要性や、おむつ使用による精神的負担を把握し理解している。布パンツから紙パンツへの移行については、かなり慎重に行っている。経済的負担も配慮している。	/	/	/	事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している。一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握するとともに、職員はトイレに行きたい時の表情や動きに気づき、声かけやトイレ誘導等の支援をすることで、日中に布パンツを履いて過ごすことができていない利用者もいる。布パンツから紙パンツに変更する際は、職員間で話し合い、利用者の精神的や経済的な負担を考慮し、慎重に対応をしている。また、利用者の排泄状況に合わせて、パッドや紙パンツなどの適切な排泄用品が使用できるように、定期的に職員間で話し合うとともに、利用者や家族に相談の上で、使用や変更をしている。さらに、果物やヨーグルトを摂取してもらったり、水分補給を勧めたり、センナ茶を飲んでもらうなど、利用者の自然排便を促すような取り組みも行われている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事、水分量や、運動不足などの原因及び、便秘が周辺症状に影響することを理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	訴えられない利用者の行動をみながら、排泄したい気持ちを行動や表情から予測している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	自己負担でおむつを使用する利用者は購入してもらうため、その時々で注文の種類を検討している。業者もコストが高くない所を紹介している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	普段の生活場面を見直し、主治医とも相談して、改善できる点を模索している。センナのお茶を煎じて、調整もしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者の動きや訴えに応じて、行きたい気持ちを予測してトイレの案内をしている。無理強いはいないように気を付けている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	自己負担でおむつを使用する利用者は購入してもらうため、その時々で注文の種類を検討している。朝と夕のユニット内での申し送り、どの種類が良いか、変化がある時に検討している。購入前に業者がサンプルをくれるので、試もしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	家族にも状況を共有してもらい、適宜使い分けできるように選んでいる。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	くだものや、ヨーグルト、センナ茶など、できるだけ自然に出るように取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	毎日入れる状況を作り、入りたい気持ちになっているタイミングで入浴できるように支援している。回数も決めずに、誘い入れるようにきっかけを作っている。	◎	/	◎	事業所では利用者が入浴できる曜日を固定せず、午後の時間帯に入浴支援をしている。少なくとも週2回以上利用者が入浴してもらえるように対応しているが、中には入浴を拒む利用者もあり、無理強いをすることなく、日にちや時間帯の変更をしたり、「私の用事に付き合ってください」などと、その気になるような声かけをしたりするなどの工夫をしている。利用者の希望に応じて、入浴の時間や回数、湯の温度、湯船に浸かる長さなどに、可能な範囲で柔軟に対応している。また、入浴剤を入れたり、冬至にゆずを浮かべたり、好みのシャンプーを使用するなど、少しでも利用者に入浴を楽しんでもらえるような工夫も行われている。さらに、利用者の羞恥心を配慮して、個別に脱衣して入浴してもらうとともに、職員と会話をしながら、ゆったりとした入浴ができるよう支援している。乾燥肌の利用者には、入浴後に保湿剤を塗布するなどの対応もしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	1人ずつ入浴できるように、ゆっくり利用者のペースで入浴してもらっている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できている事は手伝わないで見守りや声かけで入浴してもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	家族からも自宅での習慣を聞きながら、入りたい気持ちになるよう支援している。誘い方も工夫して、浴室までの案内を行っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴介助の手順書を参考に、健康状態の把握をしている。いつもと血圧や脈拍が違い不安な時は、主治医に相談して指示を受けている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	自宅での様子や入院中の様子を本人及び家族へ聞き取り、ホーム内での眠れる時間を把握している。	/	/	/	事業所には、入居前から継続して眠剤を服薬している利用者があるものの、日中の過ごし方を工夫したり、適度な水分補給をもらったり、空調や湿度等の環境面を整えるなど、医師と相談しながら、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。夜間眠れない利用者には、職員が付き添って眠たくなるまでリビングでゆっくりと話を聞くこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昨夜の様子や日中の様子を確認しながら、気持ちよく眠れる工夫を検討している。空調や湿度も確認している。夜中に希望時は水分補給もやっている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠導入剤や安定剤は極力使用しないで、生活リズムが整えるように、日中の過ごし方、体調、水分量などを検討し、往診で主治医に適宜相談している。必要な方は精神科に受診もしている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	夜間眠れないから寝させない対応は行わず、疲れ具合に応じて日中も休む時間を取り入れている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者からの要望に応じて、支援している。年賀状は届いた方に利用者名で返事を送っている。電話も希望時には直ぐに行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話番号を教えて自らかけている方もいる。自分でかけられない方は、希望があれば、職員が番号を押してコードレス電話で話してもらっている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	コードレスを使用して、部屋で電話できるようにしている。リモートは事務所で個別に行っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	封は開けずに、本人へ渡し、本人に開けてもらい、希望があれば、代読している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	限られた利用者の家族から電話がかかっている。手紙やハガキも限られた家族より届いている。本人から電話をかけることは、家族も了解している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	小銭を持っている方は数名いるが、持っているだけでも本人の安心につながっている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物に行きたい意向がない。勧めても希望されない。いつも買い物に行ける事は会話の中で伝えている。広告を見て話題提供もしている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	所持することで、不安や混乱が強くなる場合は、家族と相談しながら、家族が管理するほうが、QOLが高まるか検討している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	常に状況に応じて、本人及び家族と相談して決めている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	基本的には、預からないようにしていて、ホーム立替で引き落とし、領収書を家族へ送付している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	職員人数と相談しながら、個別にできるだけ希望に添えるよう取り組んでいる。	◎	/	○	利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟に対応できるように努めている。遠方などに住んでいる家族には、管理者等が病院受診の同行支援をしたり、入居時に重い荷物を運ぶことが難しい独居の利用者には、職員が荷物運びを手伝ったりするなどの対応をしている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	朝7時から夕方17時までは、施錠しないで、常に入出入りできるようにしている。外部の方も玄関まではいつでも入れるようにしている。	◎	◎	○	事業所の敷地内は広く、ゆったりと駐車できるスペースが設けられ、車で来訪しやすくなっている。また、玄関前の花壇には、紫陽花等の季節の花が植えられ、明るく来訪しやすい雰囲気を感じる。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	作り自体が、利用者のイメージしている大正や昭和の雰囲気ではないが、食事作りの音や匂い、生活臭が感じられる環境となっている。	◎	◎	○	玄関スペースには、観葉植物や人形等の飾り物、自動販売機等が置かれ、中庭に通じる玄関を入ると、開放的な空間となっている。リビングには小上がりの畳スペースが設けられ、利用者は洗濯物たたみをしたり、くつろぎながら休憩したりすることもできる。廊下には、季節の飾り付けや塗り絵等の利用者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気を感じることもできる。また、かわいい動物の写真が壁面に貼られ、職員から「外出願望のあった利用者が、動物の写真を見ることで穏やかになり、外に出ることがなくなった」などの話を聞くことができた。事業所では、敷地内で旬の野菜が栽培され、利用者が水やりや収穫をするとともに、犬や猫が飼育され、楽しみながら触れ合うことで、利用者の穏やかな生活にも繋がっている。日々職員の掃除が行われ、空気清浄機も置かれるなど、不快な音や臭いもせず、気持ちよく過ごせるような空間づくりも行われている。窓から、自然豊かな山々などが眺められ、中庭にある大きなケヤキの様子が見えるなど、利用者は四季の移ろいを感じることもできる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	利用者にとって不快にならないように、配慮している。掃除も丁寧に行っている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食事作りの音や匂い、生活臭が感じられる環境となっている。観葉植物や思い出のある人形や置物も飾っている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者同士で、安心できる座席があり配慮している。ソファを置いたり、玄関フロアや中庭も活用している。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に家族と本人へ、馴染みの物を持ち込んでもらい、家族が持ち込めない時は、職員が付添い荷物を運んでいる。	◎			居室にはベッドやエアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。リースの布団が用意され、利用者は使用することもできる。使い慣れたタンスやテレビを持ち込んで配置したり、思い出のある家族写真を飾ったりするなど、個々の利用者に応じた居心地良い空間づくりをしている。また、職員が毎日居室内の掃除を行い、整理整頓が行き届くなど、清潔に保たれている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者が安全に使いやすいよう、手すりや車椅子専用トイレの手すり取替を行っている。全てを排除するのではなく、極力間違いにくい環境にしている。間違っても、さりげなく取り除くなど、自尊心を気づけられないようにしている。				○ 共用空間の整理整頓が行き届き、壁やトイレに手すりが設置されるなど、車いすや歩行器を使用する利用者の動線が確保され、安心安全に移動することができるようになっている。また、トイレには、「便所」と表記が行われ、居室の入り口には、利用者の氏名を表示するなど、利用者が混乱せずに居場所を認識できるように工夫をしている。さらに、リビングには新聞やチラシのほか、趣味の道具が置かれ、利用者が自由に手に取ることができるようになっている。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	活動意欲を触発するように、ほうきや、回転モップ、新聞や広告、趣味の品など置いている。怪我につながる裁縫道具やハサミなどは、依頼があれば、すぐに出せるようにしている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	鍵をかける事への弊害を職員全体で理解して、緊急性を除いては、常に施錠しないようにしている。17時以降は防犯対策で、自宅と同様に施錠している。屋外からの侵入を防ぐ目的。内側からは、玄関も開けられる鍵にしている。利用者の行動を予測して、出たい気持ちの時は、職員が付添い出かけて、落ち着いてもらっている。	◎	◎	◎	日中に、玄関やユニットの出入口の鍵はかけておらず、17時から7時までの夜間帯のみ玄関等の施錠をしている。防犯目的で、夜間の施錠をしているため、内側から職員が開けられるようになっている。また、ユニットの出入口には鈴をつけて、職員が利用者の出入りを気づきやすくしている。また、職員は勉強会等を通して、鍵をかけることの弊害を理解し、外出願望のある利用者には寄り添って話を聞いたり、一緒に屋外に出て散歩をしたりするなどの対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時に十分説明して、納得してもらい利用が始まっている。また、安全確保のため、職員が付添いしている状況を伝えて理解してもらっている。					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前の情報を共有して、アセスメントに病歴を記載し、把握に努めている。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体状況の変化や異常のサインは、カルテや申し送りノートを活用して、早期に発見できるよう努めている。受診した記録だけをまとめて、振り返りができるようにしている。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	協力病院の西条市民病院へ連絡し、常に担当看護師や医師に確認している。通院時にFAXした事も医師からの指示をカルテに閉じている。内科、外科以外の専門領域は、近くの病院を受診している。					
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	かかりつけ医の希望を聞いて、大半は協力病院の西条市民病院だが、専門医は併用して通院介助をしている。	◎				
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人及び家族の希望と受診時の負担を優先して、かかりつけ医と連絡相談を行っている。					
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院前に家族へ説明して、通院時に家族も立ち合える配慮をしている。通院介助は施設で行い、家族が立ち会えない時は、受診後に報告している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	介護サマリーを入院当日に病院の担当看護師へ情報提供して、口頭でも配慮してほしい所を伝えられている。西条市民病院専用の情報提供書も作成している。	/	/	/	事業所では、「重度化した場合の対応に係る指針」を整備し、入居時に利用者や家族等に対応できることやできないこと、急変時の延命治療などの説明をしている。状態の変化が見られ、重度化した場合には、家族に意向を再確認するとともに、医師や看護師、職員を交えて話し合い、今後の方針を共有している。また、事業所内で、安心安全に利用者へのサービスが提供できないと判断された場合には、医師から家族に説明が行われ、今後の病院や他の施設などの受け入れ先を家族と一緒に検討をしている。職員の聞き取りから、「利用者に住み慣れた場所で最期を迎えてもらいたいと思うが、今の職員体制では看取り支援は難しい」などの意見が聞かれた。
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の洗濯物を施設が取りに行くことで、病院の関係者と話す機会が常にあり、情報交換を密に行っているため、早期退院につながっている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	夜勤専属看護師や常勤看護師へ日頃の様子や、受診した結果など報告し、容態が気になる時は、様子をみてもらっている。看護師不在の時間は、かかりつけ医や外来看護師、休日など病院が休みの時でも、入院担当看護師に相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力病院は夜間でも相談できるように配慮されている。当直医が相談に乗ってくれる。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	朝昼夕に血圧、脈拍、熱を測定して、状況に応じて血中酸素濃度も測定しているため、変化には気づきやすい。気になるときは、外来看護師や主治医に相談している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師から指示がでた処方内容が詳しく書かれた書類を保管して、薬剤師の説明を聞いている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬剤師が一包化した薬を指示通り飲んでもらえるように、薬袋の色分けや、本人確認、飲み込み確認を行っている。薬箱も活用している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	普段の状態と違って来た場合に、常に副作用が影響していないか、追加された薬など影響がないか確認している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。急変時には、延命治療を希望するかなど、入居時に確認している。	/	/	/	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	医療行為の必要性など、グループホームで安全に提供できないと予測される段階で、主治医から説明をしてもらい、受け入れ先を家族と一緒に検討している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	環境面や医師の協力(死亡時の訪問など)が整わない。現状では、救急搬送後に死亡診断や、突然死の場合は警察の検死となっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所前の説明や、状態の変化に応じて、出来る事できない事を十分に説明して、理解してもらっている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。グループホームで環境面での改善は考えていない。同じグループ内で支える事や、近隣の施設を提案している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	最後まで責任を持って住み続けられるように、その時々で施設紹介などを説明している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症について、毎年勉強会を実施していたが、コロナ対応で全員が集まることを避けているため、見逃し配信動画で研修している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	コロナ感染により、予防衣やフェイスシールド、N95マスク、ゴミの処理方法など、実践で見につけることができている。忘れないようにオンライン見逃し配信動画で研修している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	愛媛県の情報を元に、往診時に主治医から聞くなど、情報を早く入手している。保育所や小学校中学校の情報を、職員から得て、流行を把握している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	介助の後は手洗い又は消毒を徹底している。自宅での検温後、入室前に検温、ユニット内での検温を実施。マスク着用も徹底している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	月に1回の日常生活報告書送付とケアプラン作成時に日常の様子を伝え、現状を把握してもらえるように伝え、一緒に支えてもらえるよう話をしている。	/	/	/	感染対策が続き、家族が参加できる行事の開催は休止しており、一定の制限は設けられているものの、家族との外出や居室での面会が可能となり、利用者や家族に喜ばれている。今後管理者は「感染状況を見計らいながら、以前に実施していた行事を再開し、家族との交流を図りたい」と考えている。家族には、毎月利用者の近況報告や行事、介護計画の実施状況等を記載した日常生活・ケアプラン実施状況報告書を送付して、利用者の近況を伝えている。また、2か月に1回、事業所の広報誌を送付するとともに、ブログに掲載し、事業所の活動状況を伝えている。事業所の運営上の事柄や出来事は、運営推進会議の中で報告するほか、内容により電話連絡を行うこともある。さらに、家族が意見や要望を伝えて、気軽に相談に応じられるように、面会時に職員から声をかけて、コミュニケーションを図るなど、良好な信頼関係が築けるように努めている。加えて、ユニット用の携帯電話が準備され、職員は電話連絡やショートメールで家族との連絡を取り合うとともに、家族から24時間相談が受けられる体制を整えている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	面会時は部屋でゆっくりと他者を気にせずに、面会できるよう配慮している。居室内での面会と外出も徐々に出来るようになっている。家族以外の入室は禁止している。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	日常の様子を毎月1回、日常生活・ケアプラン実施状況報告書で郵送して伝えている。介護計画作成時は、遠方の家族へ電話して意向を確認している。2か月に1度作成している広報紙も郵送して、ブログにも掲載している。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入所後は、家族がしっかりと休息できて、気持ちに余裕が持てるよう支援している。在宅介護で大変と感じていた内容を聞き取り、ホームでの対応を伝え参考にしてもらっている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議を書面開催で2か月に1回報告を行っている。運営上の事柄、職員の異動や入退職、入院や入所などを伝えている。	◎	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	ホームの職員体制と環境の説明を行い、利用者個別に起こり得るリスクを説明し、対策も伝えている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	些細な事も報告して、面会時も気軽に話してもらえるように、職員から話しかけている。少し様子が気になり、施設で様子を見ている時や、受診する前後での状況をショートメールや電話で適宜報告している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入所時の説明を丁寧に行っている。事例なども伝えている。良い面や悪い面も伝えている。契約時や変更時に料金の内訳を文書で示し、丁寧に内訳を説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退所の時も経済面や環境面、その時々々の身体状況に応じて具体的な説明を行い、本人が安心できる所に住み替えできるよう支援している。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議のメンバーや、地域の方から質問があれば、適宜説明している。	/	○	/	感染対策が続き、地域行事に参加することはできていないが、事業所周辺を散歩したり、犬を散歩させたりする時には、出会った地域住民と挨拶や会話を交わしている。また、地域にある小松公民館から、作品の出品依頼が寄せられた場合には塗り絵の作品を出展したり、小松中学校で開催される運動会の際に事業所の駐車場を開放して提供したり、地域の美容室に訪問美容をお願いするなど、少しでも利用者が地域と繋がりを保てるように取り組んでいる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	ホーム周辺を散歩しながらあいさつをしている。しかし、あまり地域とのかかわりがない。コロナ対応で人が集まる所への参加は避けている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	顔見知りの地域の方が増えるように、あいさつを行っている。犬の散歩での顔なじみの方も増えている。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	運営推進会議をきっかけに、気軽に立ち寄れる関係を作っているが、現在はコロナ対応で立ち寄れない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常のおつきあいをしている。	○	運営推進会議をきっかけに、気軽に立ち寄れる関係を作っている。草引きをしながら、隣の畑の方と会話したり、犬の散歩も効果的に感じる。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	散髪依頼を近所の、のりこ美容室に依頼している。コロナ対応でその他の広がりや作れていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	小松図書館より毎年、作品依頼があり、出展している。中学生との交流は現在中止している。先生とのやり取りは続けている。散髪は近所の美容室に来てもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	書面開催で集まることは行っていない。令和6年10月30日にホームで開催予定。	◎	/	○	感染対策に伴い、運営推進会議は書面開催が続いていたが、令和6年10月から対面形式で会議が開催できるようになっている。事業所の多目的室で会議が開催され、家族や市担当者、地域住民、駐在所の巡査部長等の参加を得ることができている。会議では利用者の状況や行事報告、サービスの実施状況などを報告し、参加メンバーと意見交換をしている。また、議事録はファイルに綴じて、1階ロビーに置かれ、来訪者等が自由に閲覧できるようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	外部評価の後に、報告している。防災対策は何度かテーマとして協力を仰いでいる。書面開催が続いていて、議事録の公表は出来ていない。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	書面開催後に次回予定日を伝えている。ホームで開催できた後に、参加者へ希望を聞くように考えている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	名札の裏に理念を入れて、いつでも確認しながら仕事ができるようにしている。仕事中は名札をしていないため確認することが少なく、理念を理解している社員は少ないと感じる。	/	/	/	グループを含めた組織の規模が大きいため、代表者が来訪する機会はほとんどないものの、月1回法人の管理者会議が開催され、管理者を通して代表者に事業所の運営状況等を報告している。令和6年から、新たに各ユニットに主任が配置され、業務の効率化や情報共有の円滑化に努めている。また、法人では、オンラインの外部研修の受講ができるように整備したり、資格取得を支援したり、キャリア段位制度を参考にしながら、職員がスキルアップを図れるように取り組んでいる。定期的に、QRコードが付けられた資料が職員に配布され、オンラインで都合の良い時間帯に学べる機会も設けている。日頃から、管理者は職員の顔色や表情に注意した目配りや、こまめに声をかけることにより、職員から気軽に相談してもらうことができている。職員の聞き取りから、「管理者には仕事の相談がしやすく、具体的な助言をしてもらえる。職員同士の仲が良く、働きやすい環境である」との話を聞くことができた。今後は、職員へのストレスチェックやアンケートを実施したり、福利厚生の充実や有給休暇の取得を促したりするなど、法人と協力をしながら、職員のストレス軽減に向けた取り組みが行われることを期待したい。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設内に提示している。運営推進会議に参加されていた方には、理念を伝えていた。外部評価前には理念を書いた紙を送付している。	◎	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者が代表して、代表者へ今の状況を伝え、必要な研修など受けられる配慮をしてくれている。コロナ対応で現在はオンライン研修となっている。	/	/	/	グループを含めた組織の規模が大きいため、代表者が来訪する機会はほとんどないものの、月1回法人の管理者会議が開催され、管理者を通して代表者に事業所の運営状況等を報告している。令和6年から、新たに各ユニットに主任が配置され、業務の効率化や情報共有の円滑化に努めている。また、法人では、オンラインの外部研修の受講ができるように整備したり、資格取得を支援したり、キャリア段位制度を参考にしながら、職員がスキルアップを図れるように取り組んでいる。定期的に、QRコードが付けられた資料が職員に配布され、オンラインで都合の良い時間帯に学べる機会も設けている。日頃から、管理者は職員の顔色や表情に注意した目配りや、こまめに声をかけることにより、職員から気軽に相談してもらうことができている。職員の聞き取りから、「管理者には仕事の相談がしやすく、具体的な助言をしてもらえる。職員同士の仲が良く、働きやすい環境である」との話を聞くことができた。今後は、職員へのストレスチェックやアンケートを実施したり、福利厚生の充実や有給休暇の取得を促したりするなど、法人と協力をしながら、職員のストレス軽減に向けた取り組みが行われることを期待したい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	キャリア段位制度を参考に、働きながらスキルアップできる取組を続けている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	管理者が代表して、代表者へ今の状況を伝え、給料面や手当など、特に頑張っている職員へ配慮してもらっている。令和6年より主任を各ユニットに配置してもらい、体制づくりを行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	代表者は外部との交流や研修に費用を惜しまず、行きたい研修に参加できるように予算を入れてくれている。コロナ対応でオンライン研修となっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	ストレスを分散するのは難しい。そういった環境づくりはできていないと思う。	◎	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	勉強会でみんなが集まる機会を中止している。以前に配布している資料や、朝の申し送りで、適宜管理者より伝えている。また、身体拘束のオンライン研修で虐待防止についても説明している。	/	/	○	感染対策が続き、全ての職員が集めた勉強会は休止されているが、定期的に虐待防止等がまとめられた資料が職員に配布され、オンライン研修を受講する機会が設けられるなど、理解促進に繋げている。また、不適切なケアが見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、ケア内容に応じて、管理者に報告し、該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。申し送りなどの機会を活用して、職員への周知を図り、再発防止に努めている。訪問調査日には、気づきノートに利用者の○○などの具体的な状態を記載するとともに、可能性や気づきの情報収集や再発防止に繋げる呼びかけをするなど、職員間で意識の高いもちながら、虐待や不適切なケアの防止に向けて取り組む様子を確認することができた。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝の申し送りで振り返りを行っている。必要に応じて個別に聞き取り確認をしている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	注意を払い点検している結果として、職員が離職する事があるが、不適切な対応は見逃さず注意している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	身体拘束を行わない施設として、意識しながら仕事をするプロ意識を高く保っている。	/	/	/	感染対策が続き、全ての職員が集めた勉強会は休止されているが、定期的に虐待防止等がまとめられた資料が職員に配布され、オンライン研修を受講する機会が設けられるなど、理解促進に繋げている。また、不適切なケアが見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、ケア内容に応じて、管理者に報告し、該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。申し送りなどの機会を活用して、職員への周知を図り、再発防止に努めている。訪問調査日には、気づきノートに利用者の○○などの具体的な状態を記載するとともに、可能性や気づきの情報収集や再発防止に繋げる呼びかけをするなど、職員間で意識の高いもちながら、虐待や不適切なケアの防止に向けて取り組む様子を確認することができた。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	朝の申し送りや勉強会、ユニット会で適宜話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	入居前から身体拘束の弊害について説明し納得の上で利用してもらい、必要性がある時に状況説明と対策を家族へ説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	管理者から家族へ対象となる制度の説明を行い、西条市の相談窓口への紹介や、詳しく説明できる社会福祉士と連携している。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターや社会福祉士会、社会保険労務士と相談できる窓口を常に作っている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成して、周知している。事故が発生した時は、朝の申し送りで、状況説明を行い、次に同じことが起こらないように考えるようにしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	応急対応や初期対応の訓練を消防避難訓練時に、自主訓練で行っている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ユニット内での気づきノートを作成している。再発防止は常に検討している。月に1回のユニット会でも検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ユニット内での気づきノートを作成して、朝の会で共有している。月に1回のユニット会でも検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルは作成していないが、相談内容を職員が把握して、改善に向けてユニット会で事例が上げられ検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	内容を確認しながら、管理者が窓口となり、必要に応じて市役所への報告も行っている。会社の代表者や部長、総務部に報告して、会社としても方向性も確認している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	事例がないが、苦情があれば、納得が得られる前向きな話し合いを行うように心がけている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に苦情や相談に対する意見箱を設置している。意見箱に用紙が入ることがない。個別の相談は、管理者の会社携帯へ24時間相談できるようにしている。	◎	/	○	事業所内外に相談窓口を設けるとともに、玄関に意見箱を設置するなど、入居時に利用者や家族に苦情対応や相談窓口などの説明をしている。また、各ユニットに24時間対応できる携帯電話が用意され、いつでも家族等から管理者や職員と相談ができる体制を整えている。日々の生活の中で、利用者から「〇〇が食べたい」などの意見や要望が出された場合には、職員間で検討し、可能な範囲で対応をしている。さらに、日頃から管理者は、職員とのコミュニケーションを大切に考え、職員一人ひとりの意見や提案を聞きながら、利用者本位のサービス提供に繋がられるような支援にも努めている。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	要望や苦情があれば、国保連や市役所が窓口となっている事を契約時以外にも伝える体制はある。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	年に数回、代表者は管理者へ電話をして確認している。毎月1回の管理職会議で現状を代表者へ伝えている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ユニットリーダーが年に1回は面接を行い、利用者本位の支援を確認している。勤務中に雑談することも参考になっている。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価はいつでも回覧できるようにして、全員で評価内容を確認している。	/	/	/	全ての職員が外部評価の自己評価に参画し、管理者と主任が出された意見を取りまとめて作成している。感染対策により、書面での運営推進会議の開催が続き、書面でのサービスの評価結果や目標達成の取り組み状況の報告に留まっている。令和6年10月から集合形式の会議が開催できるようになり、今後は集合形式の会議の中で、評価結果等や目標達成計画などを報告するとともに、目標の達成状況を確認のモニターの協力を呼びかけて、意見をもらうなど、サービスの質の向上に繋がられるような取り組みが行われることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	サービス評価の項目に沿って、グループホームらしきに向かってサービスできるように話し合っている。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	運営推進会議が書面開催のため、また外部の面会も禁止しているため難しい。	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	運営推進会議が書面開催のため、また外部の面会も禁止しているため難しい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災、風水害を中心にマニュアルを作成して、玄関フローアに提示している。年に1回～2回は会社全体で、風水害の避難訓練と年2回はホームで火災総合訓練を実施。	/	/	/	年2回、火災などを想定した避難訓練を実施している。感染対策もあり、職員と利用者からのみの訓練となっている。日頃から消防署の職員や地域の駐在所の職員に運営推進会議に参加してもらうなどの連携を図ることができている。以前は、小松中学校で行われた市の総合防災訓練に参加協力することができていたが、現在は参加していない。また、事業所の多目的室に水や食料品などの備蓄品を用意している。さらに、事業所の玄関や廊下の壁面等には、非常時の連絡網や避難経路等の災害マニュアルが掲示され、家族等の来訪者に事業所で実施する災害の備えを周知できるように取り組んでいる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	作成している計画書に沿って、避難訓練をしている。主に夜間中心となっている。安全のため利用者の参加は見学程度で、社員が中心となっている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	業者が点検に入り、消火設備の点検を行っている。非常食はホーム管理者と総務部で管理している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年に2回の避難訓練計画書を提出時に消防署の職員と連携、警察官は知り合いと、地域の派出所の方が訪問に来てくれる時に管理者が連携している。	○	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	コロナ対応で、大勢が集まる場所へ参加できていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域活動への参加が、コロナ対応で一切できていない。	/	/	/	事業所は地域のケア拠点として、地域住民から認識され、管理者等は地域住民から認知症等の相談を受けるとともに、電話相談が寄せられることもあり、快く対応をしている。感染対策が続き、地域行事の参加やボランティアの受け入れは行われていない。日頃から、市行政や地域包括支援センター、小松中学校、駐在所などの関係機関との連携が図られている。感染対策もあり、地域活動の協働までには至っておらず、今後は感染状況を見計らいながら、地域のケア拠点としての活動が再開されることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近所の方が相談に来られる事が、対応している。入居相談の時に、他施設やサービスの情報も提供している。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ対応で地域の集まりは出来ていないが、災害時に避難場所として開放する事を、地域の方に提案している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	外部の方がホーム内に入れられないため、交流が出来ていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ対応で、大勢が集まる場所へ参加できていない。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 11 月 12 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 22名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3890600145
事業所名	グループホーム小松の里
(ユニット名)	西通り
記入者(管理者)	
氏名	小西成美(大森晋也)
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 20 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>○入所者一人ひとりが自立した生活を営むことができるよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供いたします。</p> <p>○一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供できるよう努めます。</p> <p>○主治医、協力病院と連携して、入居者が健康に生活できるよう援助します。</p> <p>○地域の人達と交流を図り、入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます。</p> <p>○市町村、地域の保健・医療・福祉サービスと連携して、総合的なサービスが提供できるよう努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○運営推進会議で検討報告する内容が、利用者家族全員に伝えられて、利用者家族及び地域の運営推進会議メンバーから意見や質問等を聞くことができるようになる。</p> <p>書面開催で2カ月に一度は、利用者全員の家族及び、運営推進会議メンバーさんへ報告をおこなった。職員の入職や退職についても、変更になるたびに、顔写真入りの職員紹介を送付して、把握できるように取り組んだ。</p> <p>○利用者全員の口腔内を確認する機会を増やすことが出来る。</p> <p>新たに大谷歯科医院の先生が往診に来てくれる事になり、ベッド上で口腔内の状況を聞く事ができ、口腔内のケアについて、個別に学び毎日のケアに役立てることが出来るようになったが、トラブルが出た利用者のみが対応となっていて、悪くなる前に見てもらおう事が課題となっている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設から15年目を迎える事業所は、窓や屋外から山々が眺められる自然豊かな場所に立地している。中庭の中央付近には、大きなケヤキが植えられ、落ち葉が地面を覆うなど、利用者や来訪者は季節を感じる事ができる。建物の東側にある畑では、季節に応じて、なすやきゅうり、ピーマンなどの旬の野菜が栽培され、訪問調査時点で玉ねぎの苗が植えられるなど、日々利用者は水やりや草引きをするなど、野菜の生長や収穫を楽しみにしている。また、事業所には犬と猫が飼育され、車いすの利用者が猫に触れながら声をかけるなど、可愛がりながら触れ合うことが楽しみとなり、利用者の穏やかな生活に繋がっている。さらに、母体法人は、地域において、医療や福祉、介護の総合的なサービスを幅広く展開し、状態の変化に応じて、病院への入院や他の施設への転居などの支援にも迅速に対応することができ、利用者や家族、職員の安心感に繋がっている。加えて、事業所に掲げている「あたたかく、さりげなく、気配り目配り」の目標を、職員は念頭に置いたサービス提供を心がけ、無理強いをすることなく、利用者の意思を尊重し、意識した支援に取り組んでいる。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所前の面接時、入所直後の会話、毎日の会話で把握に努めている。ケアプラン更新時にも聞き取りしている。	◎	/	○	入居前に、管理者等は利用者や家族と面談し、思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。入居後にも、日々の生活の中で、職員は利用者の思いなどを聞くように努め、ケース記録に記録して職員間で共有をしている。また、意思表示の難しい利用者には、表情やしぐさを観察して思いをくみ取るようにしている。さらに、職員の思い込みや決めつけてしまうことにより、利用者の思いの見落としや聞き逃がさないように、定期的に利用者ごとの担当職員を交代するようにしている。チラシを折ってゴミ箱を作る際に、利用者から「○○が食べたい」と思いや要望を聞くなど、職員は日々の会話に耳を傾けている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	生活歴を家族より聞き、会話の中から表情や返答内容で、思いを感じ取るようにしている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	窓越し面会やリモート面会から、居室内面会と外出が出来る機会を増やし、家族を中心に思いを話し合っている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプランの本人意向に記載することで、共有している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	いろいろな職員の意見を聞きながら、決めつけないように把握している。定期的に担当職員を交代して気づきを増やしている。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前の面接時、入所直後の会話、毎日の会話で把握に努めている。電話の都度、施設での出来事を伝えて、家族を中心に聞き取りを行っている。	/	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりなどの聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から、サービスの利用経緯や状況等の情報を聞くほか、病院の担当者からサマリーなどの情報を提供してもらうこともある。把握した情報はアセスメントシートに記録し、職員間で共有をしている。入居後に、新たに知り得た情報はケース記録に記載し、申し送りなどを活用して職員間で共有をしている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントを使い、見直し把握している。出来る事を行ってもらい、過度に手伝わず、出来る事を見極める事に努めている。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	心情や気持ちがわかる発言は細かく介護記録に気づきを記載して、把握している。いつもと様子が違う時は、申し送りで共有している。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ケアプラン更新時に家族と話し合い、職員同士の会話からも色々な方向性を検討している。	/	/	○	介護保険の更新時等には、アセスメント情報や日々の関わりの中から把握した情報をもとに、ユニット会の中で話し合い、利用者の視点に立ってより良いサービスを検討している。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアプランのニーズへ記載する時に、良く出来ている事や出来る事を記載している。また、申し送りノートにも記載して皆で共有している。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ケアプラン作成前に、本人の思いや意向を確認している。訴えられない利用者の表情から予測している。	/	/	/	事前に利用者や家族の意見や意向を確認するとともに、主治医や看護師等から指示やアドバイスをもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、月1回実施するユニット会の中で、計画作成担当者を中心に職員間で意見やアイデアを出し合いながら話し合い、意見を取りまとめて介護計画を作成している。利用者や家族から出された意見等を反映して、利用者本位の計画作成に努めている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	面会時に確認したり、全利用者家族へ電話する時に、今の生活の様子を伝え、家族からも意見をもらえるように努めている。	◎	/	/			
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	馴染みの関係や、離床時の座席等、心地よいと思ってもらえる配慮をしている。昔の話などで記憶にも働きかけている。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍で中々家族と触れ合うことが出来ず、地域の人もホームへ入れないため、限られた利用者のみになっている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	短期目標を記載して、実施記録を記入し、ユニット会で話し合っている。	/	/	/	◎ ユニット会で、介護計画の内容が検討され、職員間に周知され、情報を共有している。また、介護計画やアセスメントシートなどの情報が綴じられた利用者ごとの個別ファイルが各ユニットの事務所の棚に置かれ、職員はいつでも確認することができるようになっている。さらに、計画に沿ったサービスの実施状況は、ケア行動計画実施記録用紙に記載され、職員間で状況を把握しやすくなっている。また、日々の記録には、利用者が発した言葉のほか、普段と違う言動等も記録に残されている
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	短期目標を記載して、実施記録を記入し、毎日の確認と1カ月の状況確認をユニット会で話し合っている。	/	/	/	◎
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	介護計画の期間に見直しをしている。入退院などの後は、継続できるか暫定プランから始める時もある。	/	/	/	◎
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	新たな要望や変化が見られない場合は、介護計画の期間に確認している。ユニット会で毎月1回は確認している。	/	/	/	◎
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院後の再入所時や、心身状態に変化がある時は、見直しをしている。必要と感じる時は、暫定プランを作成するときがある。	/	/	/	◎
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ユニット会を基本としているが、朝の申し送り時や、その後のユニットメンバーで適宜話している。緊急時は申し送りノートや気づきノートを使っている。	/	/	/	○
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	発言する社員が限定されている時がある。限られた時間と参加できるメンバーでのユニット会になっている。	/	/	/	○
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	△	コロナ対応で、全員が集まることを避けている。いつも一緒に仕事をしているユニットメンバーとユニット会のみ開催している。会議録を回覧して、申し送りノートも活用している。	/	/	/	○
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートを毎日確認して、サインをしている。受診時は病院へ送付したFAX用紙に、受診した内容を記載して、皆で共有している。パソコンで受診記録を閲覧できるようにまとめている。	◎	/	/	○
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その時にしたい事を、限られた職員数で、できるだけ叶えられる努力を日々行っている。全員に実施できない日もある。	/	/	/	○
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつづけている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴、排泄、更衣、食事場面で、選んでもらう機会を作っている。不安や混乱がある利用者へは、好まれるものを職員が勧めている。	/	/	/	○
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の生活リズムを優先して、ゆっくりと生活できるよう支援している。基本的な時間は決めて、タイミングを図りながらペースを見て合わせている。	/	/	/	○
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が利用者の輪に入り、気の合う利用者テーブルを囲み雰囲気づくりをしている。	/	/	/	○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	スキンシップを行い表情の変化を見ながら支援している。	/	/	/	○
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	○	勉強会や朝の申し送りで、接遇マニュアルを意識して、言葉かけや態度を意識している。言葉かけをする時は、上から目線にならないよう意識している。。小松の里の心がけ「あたたかく、さりげなく、気ばり目くばり」を意識しながら対応している。	◎	◎	○	○
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	他者から見えないような配慮や、露出が少なくなる配慮をしながら介助している。見守りを行う際に、戸を閉めるよう気をつけている。	/	/	/	○
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室前にノックを行い、入っても良いか確認してから出入りしている。シーツ交換時や清掃時も、声かけをして承諾を得てから行っている。	/	/	/	◎
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に会社と職員でプライバシー保護の書類を交わして漏洩しないよう厳守している。	/	/	/	○

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	△	介護を行う場面でも、手伝ってもらった声かけや、教えてもらう態度で接している。職員が忙しいと感じる時に、手伝ってもらわず、職員が行ってしまう時もある。	/	/	/	日々の生活の中で、職員は声をかけて、利用者が料理の下ごしらえや野菜の水やりなどを手伝うこともあり、手伝ってもらった後には、必ず「ありがとうございました」などの感謝の気持ちを伝えている。日頃から、利用者同士の助け合いや支え合う場面も多く見られ、訪問調査日には、利用者がチラシで作ったゴミ箱とティッシュを他の利用者に渡したり、声をかけて、一緒に洗濯物をたたんだりする様子を見ることができた。また、職員は利用者同士の関係性を把握し、仲の良い利用者同士と一緒に過ごせるように配慮したり、言い合いなどのトラブルが発生しそうな場合には、職員が目配りをして早期に間に入り、否定せずに双方の話を聞いたりするなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が協働できる座席の配慮を行い、支えあう事を理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	△	その時の気持ちを考えながら、心地よく関係が良好になるように、支えあう関係ができるように、座席の配慮を行っている。利用者の方で他者の行動に不満が多い方が、否定したり怒ったりと、攻撃的になるため、狭い空間では難しいと感じる。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの原因を考え、双方が安心できるように、声かけを行っている。どちらの発言も否定しないように努めている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入所前の面接で、関係を聞き取り、面会時に家族より、関係について情報を得ている。利用年数が長くなると、家族以外との関係が少なくなっている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	利用が長くなった利用者は、施設内での馴染みの関係作りが出来ている。コロナで窓越し面会やリモート面会から居室内面会や外出と少し緩和出来始めたので、途切れないように配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外に出たい気持ちの時は、とりあえず戸外へ出るように対応している。全く出ようとされない利用者は、社員が誘っている。	○	○	○	感染対策が続き、一定の外出制限が設けられているものの、天気の良い日のほか、利用者から外出希望が出された場合には、中庭や事業所周辺を散歩したり、ベランダに出て外気浴をしたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、通院の送迎時には、管理者等が遠回りをして、車中から利用者が季節の花や海などの景色を眺められるような支援も行われている。さらに、制限はあるものの、家族との外出も可能となり、利用者に喜ばれている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ対応で社員と家族以外の外出支援は行っていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	申し送りや状況聞きながら、認知症を理解できるように、色々な対応を話し合い、検討をしている。	/	/	/	日々の申し送りなどの中で共有した利用者の情報をもとに、認知症の行動や心理症状、身体機能の低下等を職員間で話し合うとともに、看護師や理学療法士からアドバイスをもらい、認知症に関する理解を深めている。また、日々の支援の中で、職員は利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握し、着替えや入浴の洗身等のできることは時間が掛かっても自分でしてもらい、見守りやできない部分のサポートをするなどの待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	申し送りや状況聞きながら、認知症を理解できるように、看護師や理学療法士のアドバイスを参考に検討をしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事や出来そうなことの気づきを、職員同士で話し合い、できるだけ、行ってもらうようにしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	入所前の聞き取りも参考に、手先を使う事なども新たに行ってもらい、興味のあることや、積極的にやりたいことの把握に努めている。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、料理の下ごしらえ、お盆拭きなど、職員は声をかけ、利用者のできることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。また、脳トレや塗り絵、風船バレー、散歩、動物との触れ合い、野菜の世話や収穫、食べたい食事のデリバリーなど、利用者一人ひとりの楽しみごとを生活に取り入れ、張り合いや喜びのある暮らしができるよう取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	できることを、役割として行ってもらっていたが、ADL低下により、提供するも身体的に出来ない利用者が増えて、実施が難しい日が多くなっている。散歩に出かけることは高評価。	◎	◎	◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	着たい服を着ていただき、着こんでしまう方や肌着を上に着てしまう方、重ね着をする方へ、さりげなく着替えてもらっている。	/	/	/	起床時に、職員は声かけや見守りを行い、自分で服を選んで着替え、身だしなみを整えることのできる利用者もいる。外出や行事の際に、自分で髪型を整えたり、化粧をしたりするなど、おしゃれを楽しむ利用者もいる。また、食べこぼしなどの衣服の汚れが見られた場合には、職員がさりげなく拭き取ったり、居室に移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。さらに、重度な状態の利用者にも、本人らしさが保てるように、家族が持参した好みの服を着たり、訪問理美容を利用して、利用者の好みの髪形に整えてもらったりするなどの支援も行われている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	近隣のパーマ屋に希望を伝えて、利用者が好まれる髪型になるよう支援している。持参されるお気に入りの服は使用してもらっている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者に聞くと不安や不穏になる場面が多く、社員が選んだ服を着てもらうことが主となっている。持ち込みされた馴染みの服から選んでいる。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	病院受診時は、利用者がよそ行きと感じている服を選んで、選んだ服に着替えてもらっている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく綺麗に整えている。間違えていても、無理強いしない対応をしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	近所の美容院が馴染みの関係となり、希望を聞きながら散髪してくれている。馴染みの店には外出禁止のため対応できていない。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	家族からも好みを聞き取り、本人の好まれる服など持ち込まれている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	下ごしらえから、音、匂いなど、食べる前から感じられる生活臭と、見た目や味など大切にしていたが、社員不足で昼食は提供できなくなった。	/	/	/	各ユニットの職員が、栄養バランスなどを考慮した献立を作成し、職員が買い物に出かけて、利用者に調理の下ごしらえやお盆拭きなどを手伝ってもらいながら、朝食と夕食を職員が調理している。職員の人数不足もあり、昼食は副食のみ外注したレトルト食品の湯煎や盛り付けを行い、炊飯と汁物を合わせて、利用者に提供をしている。利用者の希望に応じて、朝食をパンに変更したり、店舗から寿司やピザなどをデリバリーしたり、誕生日会には、利用者が食べたい物を提供するなど、利用者に食事を楽しんでもらえるような支援にも努めている。入居時に、アレルギーの有無や苦手な食材を確認するとともに、日々の会話の中で聞いた苦手な食材や食べ残しなどを確認し、必要に応じて代替えの食材を提供している。飲み込みの悪い利用者には、彩りや見た目を意識しながら、食べやすいミキサー食や刻み食などの形態に対応をしている。利用者の個々の状態や習慣に応じて、食事量や水分摂取量に注意を払うとともに、食事やお茶等で補えない場合には、医師や家族と相談して、栄養補助食品を摂取してもらうこともある。食器類は、事業所で使いやすい物が用意され、茶碗やコップ、箸は、利用者により好みの色や柄を選んでもらっている。感染対策のため、食事の際に、職員は利用者との会話をしながら見守りや食事介助を行い、別々の場所で食事を摂るようになってきている。リビングに面したオープンキッチンから、利用者は調理の音や匂いを感じる事ができ、食事時の職員との会話を通して、食事が待ち遠しく思えるような雰囲気づくりが行われている。また、ユニット会を活用して、献立のバランスや調理方法等を職員間で話し合うとともに、必要に応じて、法人の栄養士に食事形態等の相談することもできる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	朝と夕はユニットでメニューを考え、リクエストを聞きながら献立を作り、できる方には、食材の下ごしらえを行ってもらえる支援をしているが、実際出来る利用者がいない。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	調理の下ごしらえや、後片付けを出来る利用者へお願いしている。買い物、調理、盛り付けは混乱や不安が多く、利用者から清潔不潔で文句も出るのでできない。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前の面接時にアレルギーや苦手な物を聞いている。生活が始まり、毎日の会話で聞き取りや、食べ残しを見て把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	昼食がレトルトになったため、今までより提供するメニューが大幅に少なくなっている。誕生日会を利用者の誕生日に合わせて行い、リクエスト食の提供は続けている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	嚥下や咀嚼を確認して、彩りや見た目を意識して、食べやすさの配慮も意識しながら、綺麗に盛り付けている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自宅の使用していた物を持ち込まれる利用者がいないので、使いやすい物を職員が選んでいる。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	コロナ感染予防で、利用者と食卓を囲み一緒に食べることは行っていない。利用者の食べる様子はしっかりと確認して、さりげなくサポートするようにしている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理のにおいや音を大切に、ユニット内で朝と夕は調理している。配膳後も、意欲が高まるように声かけを行っている。食べる時間もその時々で、利用者のペースで行っている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分摂取量は、十分にとれるように気を付けている。食事やお茶で補えない時は、メイバランゼリーやエンシュワリキッドも活用している。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取の少ない方には、好みの飲み物やお茶の時間に限らず回数を増やして出している。水分量が少ない日に、主治医へ相談して必要時は通院で点滴を行っている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員でバランスや調理方法を話し合い、ユニット単位でメニューを決めている。現在は栄養士の指示が必要な利用者はいない。必要時は西条市民病院の栄養士と連携を図る。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食中毒への予防や衛生管理は気を付けている。食事直前のテーブル消毒や手指消毒も毎回行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながる事を、研修や勉強会で学び理解している。大谷歯科往診で見て学ぶ機会も増えている。	/	/	/	職員は研修や勉強会で学ぶとともに、歯科医や歯科衛生士から助言を受けて、口腔ケアの必要性や重要性を理解している。毎食後に、職員は利用者へ声をかけ、洗面台に移動して歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りや磨き残しなどのサポートをするとともに、自分で口腔ケアをすることが難しい利用者には、スポンジブラシやガーゼなどの適切な口腔ケア用品を使用した介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、口腔内に異常が見られた場合には、訪問歯科診療や歯科受診に繋げている。さらに、義歯の管理が難しい利用者には、夕食後に預かり、洗浄剤に浸けて洗浄するなどの対応をしている。介助を必要とする利用者の口腔内の状況は把握することができていない。管理者から、「自分で歯磨きをしている利用者の中には、口の中を見せることを拒否する人もいるため、無理強いはいしていない。状態が悪くなる前に見せてもらえるように、日頃から声かけするなどの工夫をしていきたい」との話を聞くことができた。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診の依頼をしている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科往診時に、個別に気を付けるポイントを教えてもらっている。他の利用者へも学んだ知識を参考にしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	無理強いしないように、手入れを行っている。入れ歯洗浄剤も活用している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診を依頼している。どうしても拒否され自力で歯磨きする利用者には難しい。毎食後に必ず行っている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	勉強会でトイレでの排泄の重要性や、おむつ使用による精神的負担を把握し理解している。布パンツから紙パンツへの移行については、かなり慎重に行っている。経済的負担も配慮している。	/	/	/	事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している。一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握するとともに、職員はトイレに行きたい時の表情や動きに気づき、声かけやトイレ誘導等の支援をすることで、日中に布パンツを履いて過ごすことができていない利用者もいる。布パンツから紙パンツに変更する際は、職員間で話し合い、利用者の精神的や経済的な負担を考えて、慎重に対応をしている。また、利用者の排泄状況に合わせて、パッドや紙パンツなどの適切な排泄用品が使用できるように、定期的に職員間で話し合うとともに、利用者や家族に相談の上で、使用や変更をしている。さらに、果物やヨーグルトを摂取してもらったり、水分補給を勧めたり、センナ茶を飲んでもらうなど、利用者の自然排便を促すような取り組みも行われている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事、水分量や、運動不足などの原因及び、便秘が周辺症状に影響することを理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	訴えられない利用者の行動をみながら、排泄したい気持ちを行動や表情から予測している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	自己負担でおむつを使用する利用者は購入してもらうため、その時々で注文の種類を検討している。業者もコストが高くない所を紹介している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	普段の生活場面を見直し、主治医とも相談して、改善できる点を模索している。センナのお茶を煎じて、調整もしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者の動きや訴えに応じて、行きたい気持ちを予測してトイレの案内をしている。無理強いはいないように気を付けている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	自己負担でおむつを使用する利用者は購入してもらうため、その時々で注文の種類を検討している。朝と夕のユニット内での申し送り、どの種類が良いか、変化がある時に検討している。購入前に業者がサンプルをくれるので、試している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	家族にも状況を共有してもらい、適宜使い分けできるように選んでいる。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	くだものや、ヨーグルト、センナ茶など、できるだけ自然に出るように取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	毎日入れる状況を作り、入りたい気持ちになっているタイミングで入浴できるように支援している。回数も決めずに、誘い入れるようにきっかけを作っている。	◎	/	◎	事業所では利用者が入浴できる曜日を固定せず、午後の時間帯に入浴支援をしている。少なくとも週2回以上利用者が入浴してもらえるように対応しているが、中には入浴を拒む利用者もあり、無理強いをすることなく、日にちや時間帯の変更をしたり、「私の用事に付き合ってください」などと、その気になるような声かけをしたりするなどの工夫をしている。利用者の希望に応じて、入浴の時間や回数、湯の温度、湯船に浸かる長さなどに、可能な範囲で柔軟に対応している。また、入浴剤を入れたり、冬至にゆずを浮かべたり、好みのシャンプーを使用するなど、少しでも利用者に入浴を楽しんでもらえるような工夫も行われている。さらに、利用者の羞恥心を配慮して、個別に脱衣して入浴してもらうとともに、職員と会話をしながら、ゆったりとした入浴ができるよう支援している。乾燥肌の利用者には、入浴後に保湿剤を塗布するなどの対応もしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	△	シャワー浴対応の利用者がほとんどで、ゆっくり入浴(浴槽内へ入る)事ができない。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できている事は手伝わないで見守りや声かけで入浴してもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	家族からも自宅での習慣を聞きながら、入りたい気持ちになるよう支援している。誘い方も工夫して、浴室までの案内を行っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴介助の手順書を参考に、健康状態の把握をしている。いつもと血圧や脈拍が違い不安な時は、主治医に相談して指示を受けている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	自宅での様子や入院中の様子を本人及び家族へ聞き取り、ホーム内での眠れる時間を把握している。	/	/	/	事業所には、入居前から継続して眠剤を服薬している利用者があるものの、日中の過ごし方を工夫したり、適度な水分補給をもらったり、空調や湿度等の環境面を整えるなど、医師と相談しながら、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。夜間眠れない利用者には、職員が付き添って眠たくなるまでリビングでゆっくりと話を聞くこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昨夜の様子や日中の様子を確認しながら、気持ちよく眠れる工夫を検討している。空調や湿度も確認している。夜中に希望時は水分補給もやっている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠導入剤や安定剤は極力使用しないで、生活リズムが整えるように、日中の過ごし方、体調、水分量などを検討し、往診で主治医に適宜相談している。必要な方は精神科に受診もしている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	夜間眠れないから寝させない対応は行わず、疲れ具合に応じて日中も休む時間を取り入れている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者からの要望に応じて、支援している。年賀状は届いた方に利用者名で返事を送っている。電話も希望時には直ぐに行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話番号を教えて自らかけている方もいる。自分でかけられない方は、希望があれば、職員が番号を押してコードレス電話で話してもらっている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	コードレスを使用して、部屋で電話できるようにしている。リモートは事務所で個別に行っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	封は開けずに、本人へ渡し、本人に開けてもらい、希望があれば、代読している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	限られた利用者の家族から電話がかかっている。手紙やハガキも限られた家族より届いている。本人から電話をかけることは、家族も了解している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	小銭を持っている方は数名いるが、持っているだけでも本人の安心につながっている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物に行きたい意向がない。勧めても希望されない。いつも買い物に行ける事は会話の中で伝えている。広告を見て話題提供もしている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	所持することで、不安や混乱が強くなる場合は、家族と相談しながら、家族が管理するほうが、QOLが高まるか検討している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	常に状況に応じて、本人及び家族と相談して決めている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	基本的には、預からないようにしていて、ホーム立替で引き落とし、領収書を家族へ送付している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	職員人数と相談しながら、個別にできるだけ希望に添えるよう取り組んでいる。	◎	/	○	利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟に対応できるように努めている。遠方などに住んでいる家族には、管理者等が病院受診の同行支援をしたり、入居時に重い荷物を運ぶことが難しい独居の利用者には、職員が荷物運びを手伝ったりするなどの対応をしている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	朝7時から夕方17時までは、施錠しないで、常に入出入りできるようにしている。外部の方も玄関まではいつでも入れるようにしている。	◎	◎	○	事業所の敷地内は広く、ゆったりと駐車できるスペースが設けられ、車で来訪しやすくなっている。また、玄関前の花壇には、紫陽花等の季節の花が植えられ、明るく来訪しやすい雰囲気を感じられる。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	作り自体が、利用者のイメージしている大正や昭和の雰囲気ではないが、食事作りの音や匂い、生活臭が感じられる環境となっている。	◎	◎	○	玄関スペースには、観葉植物や人形等の飾り物、自動販売機等が置かれ、中庭に通じる玄関を入ると、開放的な空間となっている。リビングには小上がりの畳スペースが設けられ、利用者は洗濯物たたみをしたり、くつろぎながら休憩したりすることもできる。廊下には、季節の飾り付けや塗り絵等の利用者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気を感じることもできる。また、かわいい動物の写真が壁面に貼られ、職員から「外出願望のあった利用者が、動物の写真を見ることで穏やかになり、外に出ることがなくなった」などの話を聞くことができた。事業所では、敷地内で旬の野菜が栽培され、利用者が水やりや収穫をするともに、犬や猫が飼育され、楽しみながら触れ合うことで、利用者の穏やかな生活にも繋がっている。日々職員の掃除が行われ、空気清浄機も置かれるなど、不快な音や臭いもせず、気持ちよく過ごせるような空間づくりも行われている。窓から、自然豊かな山々などが眺められ、中庭にある大きなケヤキの様子が見えるなど、利用者は四季の移ろいを感じることもできる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	利用者にとって不快にならないように、配慮している。掃除も丁寧に行っている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食事作りの音や匂い、生活臭が感じられる環境となっている。観葉植物や思い出のある人形や置物も飾っている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者同士で、安心できる座席があり配慮している。ソファを置いたり、玄関フロアや中庭も活用している。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に家族と本人へ、馴染みの物を持ち込んでもらい、家族が持ち込めない時は、職員が付添い荷物を運んでいる。	◎			居室にはベッドやエアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。リースの布団が用意され、利用者は使用することもできる。使い慣れたタンスやテレビを持ち込んで配置したり、思い出のある家族写真を飾ったりするなど、個々の利用者に応じた居心地良い空間づくりをしている。また、職員が毎日居室内の掃除を行い、整理整頓が行き届くなど、清潔に保たれている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者が安全に使いやすいよう、手すりや車椅子専用トイレの手すり取替を行っている。全てを排除するのではなく、極力間違いにくい環境にしている。間違っても、さりげなく取り除くなど、自尊心を気づけられないようにしている。				○ 共用空間の整理整頓が行き届き、壁やトイレに手すりが設置されるなど、車いすや歩行器を使用する利用者の動線が確保され、安心安全に移動することができるようになっている。また、トイレには、「便所」と表記が行われ、居室の入り口には、利用者の氏名を表示するなど、利用者が混乱せずに居場所を認識できるように工夫をしている。さらに、リビングには新聞やチラシのほか、趣味の道具が置かれ、利用者が自由に手に取ることができるようになっている。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	活動意欲を触発するように、ほうきや、回転モップ、新聞や広告、趣味の品など置いている。怪我につながる裁縫道具やハサミなどは、依頼があれば、すぐに出せるようにしている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	鍵をかける事への弊害を職員全体で理解して、緊急性を除いては、常に施錠しないようにしている。17時以降は防犯対策で、自宅と同様に施錠している。屋外からの侵入を防ぐ目的。内側からは、玄関も開けられる鍵にしている。利用者の行動を予測して、出たい気持ちの時は、職員が付添い出かけて、落ち着いてもらっている。	◎	◎	◎	日中に、玄関やユニットの出入口の鍵はかけておらず、17時から7時までの夜間帯のみ玄関等の施錠をしている。防犯目的で、夜間の施錠をしているため、内側から職員が開けられるようになっている。また、ユニットの出入口には鈴をつけて、職員が利用者の出入りを気づきやすくしている。また、職員は勉強会等を通して、鍵をかけることの弊害を理解し、外出願望のある利用者には寄り添って話を聞いたり、一緒に屋外に出て散歩をしたりするなどの対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時に十分説明して、納得してもらい利用が始まっている。また、安全確保のため、職員が付添いしている状況を伝えて理解してもらっている。					
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前の情報を共有して、アセスメントに病歴を記載し、把握に努めている。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体状況の変化や異常のサインは、カルテや申し送りノートを活用して、早期に発見できるよう努めている。受診した記録だけをまとめて、振り返りができるようにしている。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	協力病院の西条市民病院へ連絡し、常に担当看護師や医師に確認している。通院時にFAXした事も医師からの指示をカルテに閉じている。内科、外科以外の専門領域は、近くの病院を受診している。					
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	かかりつけ医の希望を聞いて、大半は協力病院の西条市民病院だが、専門医は併用して通院介助をしている。	◎				
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人及び家族の希望と受診時の負担を優先して、かかりつけ医と連絡相談を行っている。					
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院前に家族へ説明して、通院時に家族も立ち合える配慮をしている。通院介助は施設で行い、家族が立ち会えない時は、受診後に報告している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	介護サマリーを入院当日に病院の担当看護師へ情報提供して、口頭でも配慮してほしい所を伝えられている。西条市民病院専用の情報提供書も作成している。	/	/	/	事業所では、「重度化した場合の対応に係る指針」を整備し、入居時に利用者や家族等に対応できることやできないこと、急変時の延命治療などの説明をしている。状態の変化が見られ、重度化した場合には、家族に意向を再確認するとともに、医師や看護師、職員を交えて話し合い、今後の方針を共有している。また、事業所内で、安心安全に利用者へのサービスが提供できないと判断された場合には、医師から家族に説明が行われ、今後の病院や他の施設などの受け入れ先を家族と一緒に検討をしている。職員の聞き取りから、「利用者に住み慣れた場所で最期を迎えてもらいたいと思うが、今の職員体制では看取り支援は難しい」などの意見が聞かれた。
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の洗濯物を施設が取りに行くことで、病院の関係者と話す機会が常にあり、情報交換を密に行っているため、早期退院につながっている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	夜勤専属看護師や常勤看護師へ日頃の様子や、受診した結果など報告し、容態が気になる時は、様子をみてもらっている。看護師不在の時間は、かかりつけ医や外来看護師、休日など病院が休みの時でも、入院担当看護師に相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力病院は夜間でも相談できるように配慮されている。当直医が相談に乗ってくれる。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	朝昼夕に血圧、脈拍、熱を測定して、状況に応じて血中酸素濃度も測定しているため、変化には気づきやすい。気になるときは、外来看護師や主治医に相談している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師から指示がでた処方内容が詳しく書かれた書類を保管して、薬剤師の説明を聞いている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬剤師が一包化した薬を指示通り飲んでもらえるように、薬袋の色分けや、本人確認、飲み込み確認を行っている。薬箱も活用している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	普段の状態と違って来た場合に、常に副作用が影響していないか、追加された薬など影響がないか確認している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。急変時には、延命治療を希望するかなど、入居時に確認している。	/	/	/	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	医療行為の必要性など、グループホームで安全に提供できないと予測される段階で、主治医から説明をしてもらい、受け入れ先を家族と一緒に検討している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	環境面や医師の協力(死亡時の訪問など)が整わない。現状では、救急搬送後に死亡診断や、突然死の場合は警察の検死となっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所前の説明や、状態の変化に応じて、出来る事できない事を十分に説明して、理解してもらっている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。グループホームで環境面での改善は考えていない。同じグループ内で支える事や、近隣の施設を提案している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	最後まで責任を持って住み続けられるように、その時々で施設紹介などを説明している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症について、毎年勉強会を実施していたが、コロナ対応で全員が集まることを避けているため、見逃し配信動画で研修している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	コロナ感染により、予防衣やフェイスシールド、N95マスク、ゴミの処理方法など、実践で見につけることができている。忘れないようにオンライン見逃し配信動画で研修している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	愛媛県の情報を元に、往診時に主治医から聞くなど、情報を早く入手している。保育所や小学校中学校の情報を、職員から得て、流行を把握している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	介助の後は手洗い又は消毒を徹底している。自宅での検温後、入室前に検温、ユニット内での検温を実施。マスク着用も徹底している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	月に1回の日常生活報告書送付とケアプラン作成時に日常の様子を伝え、現状を把握してもらえるように伝え、一緒に支えてもらえるよう話をしている。	/	/	/	感染対策が続き、家族が参加できる行事の開催は休止しており、一定の制限は設けられているものの、家族との外出や居室での面会が可能となり、利用者や家族に喜ばれている。今後管理者は「感染状況を見計らいながら、以前に実施していた行事を再開し、家族との交流を図りたい」と考えている。家族には、毎月利用者の近況報告や行事、介護計画の実施状況等を記載した日常生活・ケアプラン実施状況報告書を送付して、利用者の近況を伝えている。また、2か月に1回、事業所の広報誌を送付するとともに、ブログに掲載し、事業所の活動状況を伝えている。事業所の運営上の事柄や出来事は、運営推進会議の中で報告するほか、内容により電話連絡を行うこともある。さらに、家族が意見や要望を伝えて、気軽に相談に応じられるように、面会時に職員から声をかけて、コミュニケーションを図るなど、良好な信頼関係が築けるように努めている。加えて、ユニット用の携帯電話が準備され、職員は電話連絡やショートメールで家族との連絡を取り合うとともに、家族から24時間相談が受けられる体制を整えている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	面会時は部屋でゆっくりと他者を気にせずに、面会できるよう配慮している。居室内での面会と外出も徐々に出来るようになっている。家族以外の入室は禁止している。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	日常の様子を毎月1回、日常生活・ケアプラン実施状況報告書で郵送して伝えている。介護計画作成時は、遠方の家族へ電話して意向を確認している。2か月に1度作成している広報紙も郵送して、ブログにも掲載している。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入所後は、家族がしっかりと休息できて、気持ちに余裕が持てるよう支援している。在宅介護で大変と感じていた内容を聞き取り、ホームでの対応を伝え参考にしてもらっている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議を書面開催で2か月に1回報告を行っている。運営上の事柄、職員の異動や入退職、入院や入所などを伝えている。	◎	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	ホームの職員体制と環境の説明を行い、利用者個別に起こり得るリスクを説明し、対策も伝えている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	些細な事も報告して、面会時も気軽に話してもらえるように、職員から話しかけている。少し様子が気になり、施設で様子を見ている時や、受診する前後での状況をショートメールや電話で適宜報告している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入所時の説明を丁寧に行っている。事例なども伝えている。良い面や悪い面も伝えている。契約時や変更時に料金の内訳を文書で示し、丁寧に内訳を説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退所の時も経済面や環境面、その時々々の身体状況に応じて具体的な説明を行い、本人が安心できる所に住み替えできるよう支援している。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議のメンバーや、地域の方から質問があれば、適宜説明している。	/	○	/	感染対策が続き、地域行事に参加することはできていないが、事業所周辺を散歩したり、犬を散歩させたりする時には、出会った地域住民と挨拶や会話を交わしている。また、地域にある小松公民館から、作品の出品依頼が寄せられた場合には塗り絵の作品を出展したり、小松中学校で開催される運動会の際に事業所の駐車場を開放して提供したり、地域の美容室に訪問美容をお願いするなど、少しでも利用者が地域と繋がりを保てるように取り組んでいる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	ホーム周辺を散歩しながらあいさつをしている。しかし、あまり地域とのかかわりがない。コロナ対応で人が集まる所への参加は避けている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	顔見知りの地域の方が増えるように、あいさつを行っている。犬の散歩での顔なじみの方も増えている。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	運営推進会議をきっかけに、気軽に立ち寄れる関係を作っているが、現在はコロナ対応で立ち寄れない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常のおつきあいをしている。	○	運営推進会議をきっかけに、気軽に立ち寄れる関係を作っている。草引きをしながら、隣の畑の方と会話したり、犬の散歩も効果的に感じる。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	散髪依頼を近所の、のりこ美容室に依頼している。コロナ対応でその他の広がりや作れていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	小松図書館より毎年、作品依頼があり、出展している。中学生との交流は現在中止している。先生とのやり取りは続けている。散髪は近所の美容室に来てもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	書面開催で集まることは行っていない。令和6年10月30日にホームで開催予定。	◎	/	○	感染対策に伴い、運営推進会議は書面開催が続いていたが、令和6年10月から対面形式で会議が開催できるようになっている。事業所の多目的室で会議が開催され、家族や市担当者、地域住民、駐在所の巡査部長等の参加を得ることができている。会議では利用者の状況や行事報告、サービスの実施状況などを報告し、参加メンバーと意見交換をしている。また、議事録はファイルに綴じて、1階ロビーに置かれ、来訪者等が自由に閲覧できるようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	外部評価の後に、報告している。防災対策は何度かテーマとして協力を仰いでいる。書面開催が続いていて、議事録の公表は出来ていない。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	書面開催後に次回予定日を伝えている。ホームで開催できた後に、参加者へ希望を聞くように考えている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	名札の裏に理念を入れて、いつでも確認しながら仕事ができるようにしている。仕事中は名札をしていないため確認することが少なく、理念を理解している社員は少ないと感じる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設内に提示している。運営推進会議に参加されていた方には、理念を伝えていた。外部評価前には理念を書いた紙を送付している。	◎	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者が代表して、代表者へ今の状況を伝え、必要な研修など受けられる配慮をしてくれている。コロナ対応で現在はオンライン研修となっている。	/	/	/	グループを含めた組織の規模が大きいため、代表者が来訪する機会はほとんどないものの、月1回法人の管理者会議が開催され、管理者を通して代表者に事業所の運営状況等を報告している。令和6年から、新たに各ユニットに主任が配置され、業務の効率化や情報共有の円滑化に努めている。また、法人では、オンラインの外部研修の受講ができるように整備したり、資格取得を支援したり、キャリア段位制度を参考にしながら、職員がスキルアップを図れるよう取り組んでいる。定期的に、QRコードが付けられた資料が職員に配布され、オンラインで都合の良い時間帯に学べる機会も設けている。日頃から、管理者は職員の顔色や表情に注意した目配りや、こまめに声をかけることにより、職員から気軽に相談してもらうことができている。職員の聞き取りから、「管理者には仕事の相談がしやすく、具体的な助言をもらえる。職員同士の仲が良く、働きやすい環境である」との話を聞くことができた。今後は、職員へのストレスチェックやアンケートを実施したり、福利厚生の実施や有給休暇の取得を促したりするなど、法人と協力をしながら、職員のストレス軽減に向けた取り組みが行われることを期待したい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	キャリア段位制度を参考に、働きながらスキルアップできる取組を続けている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	管理者が代表して、代表者へ今の状況を伝え、給料面や手当など、特に頑張っている職員へ配慮してもらっている。令和6年より主任を各ユニットに配置してもらい、体制づくりを行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	代表者は外部との交流や研修を殆ど禁止している。資格更新など運営上の必要性がある研修のみ参加出来ている。コロナ対応でオンライン研修となっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	ストレスを発散するのは難しい。そういった環境づくりはできていないと思う。	◎	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	勉強会でみんなが集まる機会を中止している。以前に配布している資料や、朝の申し送りで、適宜管理者より伝えている。また、身体拘束のオンライン研修で虐待防止についても説明している。	/	/	○	感染対策が続き、全ての職員が集めた勉強会は休止されているが、定期的に虐待防止等がまとめられた資料が職員に配布され、オンライン研修を受講する機会が設けられるなど、理解促進に繋げている。また、不適切なケアが見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、ケア内容に応じて、管理者に報告し、該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。申し送りなどの機会を活用して、職員への周知を図り、再発防止に努めている。訪問調査日には、気づきノートに利用者の○○などの具体的な状態を記載するとともに、可能性や気づきの情報収集や再発防止に繋げる呼びかけをするなど、職員間で意識の高いもちながら、虐待や不適切なケアの防止に向けて取り組む様子を確認することができた。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝の申し送りで振り返りを行っている。必要に応じて個別に聞き取り確認をしている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	注意を払い点検している結果として、職員が離職する事があるが、不適切な対応は見逃さず注意している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	身体拘束を行わない施設として、意識しながら仕事をするプロ意識を高く保っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	朝の申し送りや勉強会、ユニット会で適宜話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	入居前から身体拘束の弊害について説明し納得の上で利用してもらい、必要性がある時に状況説明と対策を家族へ説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	管理者から家族へ対象となる制度の説明を行い、西条市の相談窓口への紹介や、詳しく説明できる社会福祉士と連携している。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターや社会福祉士会、社会保険労務士と相談できる窓口を常に作っている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成して、周知している。事故が発生した時は、朝の申し送りで、状況説明を行い、次に同じことが起こらないように考えるようにしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	応急対応や初期対応の訓練を消防避難訓練時に、自主訓練で行っている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ユニット内で話し合い、再発防止は常に検討している。月に1回のユニット会でも検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ユニット内での気づきノートを作成して、朝の会で共有している。月に1回のユニット会でも検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルは作成していないが、相談内容を職員が把握して、改善に向けてユニット会で事例が上がれば検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	内容を確認しながら、管理者が窓口となり、必要に応じて市役所への報告も行っている。会社の代表者や部長、総務部に報告して、会社としても方向性も確認している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	事例がないが、苦情があれば、納得が得られる前向きな話し合いを行うように心がけている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に苦情や相談に対する意見箱を設置している。意見箱に用紙が入ることがない。個別の相談は、管理者の会社携帯へ24時間相談できるようにしている。	◎	/	○	事業所内外に相談窓口を設けるとともに、玄関に意見箱を設置するなど、入居時に利用者や家族に苦情対応や相談窓口などの説明をしている。また、各ユニットに24時間対応できる携帯電話が用意され、いつでも家族等から管理者や職員と相談ができる体制を整えている。日々の生活の中で、利用者から「〇〇が食べたい」などの意見や要望が出された場合には、職員間で検討し、可能な範囲で対応をしている。さらに、日頃から管理者は、職員とのコミュニケーションを大切に考え、職員一人ひとりの意見や提案を聞きながら、利用者本位のサービス提供に繋げられるような支援にも努めている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	要望や苦情があれば、国保連や市役所が窓口となっている事を契約時以外にも伝える体制はある。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	○	年に数回、代表者は管理者へ電話をして確認している。毎月1回の管理職会議で現状を代表者へ伝えている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ユニットリーダーが年に1回は面接を行い、利用者本位の支援を確認している。勤務中に雑談することも参考になっている。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価はいつでも閲覧できるようにして、全員で評価内容を確認している。	/	/	/	全ての職員が外部評価の自己評価に参画し、管理者と主任が出された意見を取りまとめて作成している。感染対策により、書面での運営推進会議の開催が続き、書面でのサービスの評価結果や目標達成の取り組み状況の報告に留まっている。令和6年10月から集合形式の会議が開催できるようになり、今後は集合形式の会議の中で、評価結果等や目標達成計画などを報告するとともに、目標の達成状況を確認のモニターの協力を呼びかけて、意見をもらうなど、サービスの質の向上に繋げられるような取り組みが行われることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	サービス評価の項目に沿って、グループホームらしきに向かってサービスできるように話し合っている。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	運営推進会議が書面開催のため、また外部の面会も禁止しているため難しい。	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	運営推進会議が書面開催のため、また外部の面会も禁止しているため難しい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災、風水害を中心にマニュアルを作成して、玄関フローアに提示している。年に1回～2回は会社全体で、風水害の避難訓練と年2回はホームで火災総合訓練を実施。	/	/	/	年2回、火災などを想定した避難訓練を実施している。感染対策もあり、職員と利用者だけの訓練となっている。日頃から消防署の職員や地域の駐在所の職員に運営推進会議に参加してもらうなどの連携を図ることができている。以前は、小松中学校で行われた市の総合防災訓練に参加協力することができていたが、現在は参加していない。また、事業所の多目的室に水や食料品などの備蓄品を用意している。さらに、事業所の玄関や廊下の壁面等には、非常時の連絡網や避難経路等の災害マニュアルが掲示され、家族等の来訪者に事業所で実施する災害の備えを周知できるように取り組んでいる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	作成している計画書に沿って、避難訓練をしている。主に夜間中心となっている。安全のため利用者の参加は見学程度で、社員が中心となっている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	業者が点検に入り、消火設備の点検を行っている。非常食はホーム管理者と総務部で管理している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年に2回の避難訓練計画書を提出時に消防署の職員と連携、警察官は知り合いと、地域の派出所の方が訪問に来てくれる時に管理者が連携している。	○	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	コロナ対応で、大勢が集まる場所へ参加できていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域活動への参加が、コロナ対応で一切できていない。	/	/	/	事業所は地域のケア拠点として、地域住民から認識され、管理者等は地域住民から認知症等の相談を受けるとともに、電話相談が寄せられることもあり、快く対応をしている。感染対策が続き、地域行事の参加やボランティアの受け入れは行われていない。日頃から、市行政や地域包括支援センター、小松中学校、駐在所などの関係機関との連携が図られている。感染対策もあり、地域活動の協働までには至っておらず、今後は感染状況を見計らいながら、地域のケア拠点としての活動が再開されることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近所の方が相談に来られる事が、対応している。入居相談の時に、他施設やサービスの情報も提供している。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ対応で地域の集まりは出来ていないが、災害時に避難場所として開放する事を、地域の方に提案している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	外部の方がホーム内に入れられないため、交流が出来ていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ対応で、大勢が集まる場所へ参加できていない。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 11 月 12 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 22名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3890600145
事業所名	グループホーム小松の里
(ユニット名)	上通り
記入者(管理者)	
氏名	玉井嘉奈子(大森晋也)
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 20 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>○入所者一人ひとりが自立した生活を営むことができるよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供いたします。</p> <p>○一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供できるよう努めます。</p> <p>○主治医、協力病院と連携して、入居者が健康に生活できるよう援助します。</p> <p>○地域の人達と交流を図り、入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます。</p> <p>○市町村、地域の保健・医療・福祉サービスと連携して、総合的なサービスが提供できるよう努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>○運営推進会議で検討報告する内容が、利用者家族全員に伝えられて、利用者家族及び地域の運営推進会議メンバーから意見や質問等を聞くことができるようになる。</p> <p>書面開催で2カ月に一度は、利用者全員の家族及び、運営推進会議メンバーさんへ報告をおこなった。職員の入職や退職についても、変更になるたびに、顔写真入りの職員紹介を送付して、把握できるように取り組んだ。</p> <p>○利用者全員の口腔内を確認する機会を増やすことが出来る。</p> <p>新たに大谷歯科医院の先生が往診に来てくれる事になり、ベッド上で口腔内の状況を聞く事ができ、口腔内のケアについて、個別に学び毎日のケアに役立てることが出来るようになったが、トラブルが出た利用者のみが対応となっていて、悪くなる前に見てもらおう事が課題となっている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設から15年目を迎える事業所は、窓や屋外から山々が眺められる自然豊かな場所に立地している。中庭の中央付近には、大きなケヤキが植えられ、落ち葉が地面を覆うなど、利用者や来訪者は季節を感じる事ができる。建物の東側にある畑では、季節に応じて、なすやきゅうり、ピーマンなどの旬の野菜が栽培され、訪問調査時点で玉ねぎの苗が植えられるなど、日々利用者は水やりや草引きをするなど、野菜の生長や収穫を楽しみにしている。また、事業所には犬と猫が飼育され、車いすの利用者が猫に触れながら声をかけるなど、可愛がりながら触れ合うことが楽しみとなり、利用者の穏やかな生活に繋がっている。さらに、母体法人は、地域において、医療や福祉、介護の総合的なサービスを幅広く展開し、状態の変化に応じて、病院への入院や他の施設への転居などの支援にも迅速に対応することができ、利用者や家族、職員の安心感に繋がっている。加えて、事業所に掲げている「あたたかく、さりげなく、気配り目配り」の目標を、職員は念頭に置いたサービス提供を心がけ、無理強いをすることなく、利用者の意思を尊重し、意識した支援に取り組んでいる。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所前の面接時、入所直後の会話、毎日の会話で把握に努めている。ケアプラン更新時にも聞き取りしている。	◎	/	○	入居前に、管理者等は利用者や家族と面談し、思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。入居後にも、日々の生活の中で、職員は利用者の思いなどを聞くように努め、ケース記録に記録して職員間で共有をしている。また、意思表示の難しい利用者には、表情やしぐさを観察して思いをくみ取るようにしている。さらに、職員の思い込みや決めつけてしまうことにより、利用者の思いの見落としや聞き逃がさないように、定期的に利用者ごとの担当職員を交代するようにしている。チラシを折ってゴミ箱を作る際に、利用者から「○○が食べたい」と思いや要望を聞くなど、職員は日々の会話に耳を傾けている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	生活歴を家族より聞き、会話の中から表情や返答内容で、思いを感じ取るようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	窓越し面会やリモート面会から、居室内面会と外出が出来る機会を増やし、家族を中心に思いを話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプランの本人意向に記載することで、共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	いろいろな職員の意見を聞きながら、決めつけないように把握している。定期的に担当職員を交代して気づきを増やしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前の面接時、入所直後の会話、毎日の会話で把握に努めている。電話の都度、施設での出来事を伝えて、家族を中心に聞き取りを行っている。	/	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりなどの聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から、サービスの利用経緯や状況等の情報を聞くほか、病院の担当者からサマリーなどの情報を提供してもらうこともある。把握した情報はアセスメントシートに記録し、職員間で共有をしている。入居後に、新たに知り得た情報はケース記録に記載し、申し送りなどを活用して職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントを使い、見直し把握している。出来る事を行ってもらい、過度に手伝わず、出来る事を見極める事に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	本人の発した言葉など介護記録に細かく気づきを記載して、把握している。いつもと様子が違う時は、申し送りで共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ケアプラン更新時に家族と話し合い、職員同士の会話からも色々な方向性を検討している。	/	/	○	介護保険の更新時等には、アセスメント情報や日々の関わりの中から把握した情報をもとに、ユニット会の中で話し合い、利用者の視点に立ってより良いサービスを検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアプランのニーズへ記載する時に、良く出来ている事や出来る事を記載している。また、申し送りノートにも記載して皆で共有している。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ケアプラン作成前に、本人の思いや意向を確認している。訴えられない利用者の表情から予測している。	/	/	/	事前に利用者や家族の意見や意向を確認するとともに、主治医や看護師等から指示やアドバイスをもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、月1回実施するユニット会の中で、計画作成担当者を中心に職員間で意見やアイデアを出し合いながら話し合い、意見を取りまとめて介護計画を作成している。利用者や家族から出された意見等を反映して、利用者本位の計画作成に努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	面会時に確認したり、全利用者家族へ電話する時に、今の生活の様子を伝え、家族からも意見をもらえるように努めている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	馴染みの関係や、離床時の座席等、心地よいと思ってもらえる配慮をしている。昔の話などで記憶にも働きかけている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナ禍で中々家族と触れ合うことが出来ず、地域の人もホームへ入れないため、限られた利用者のみになっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	短期目標を記載して、実施記録を記入し、ユニット会で話し合っている。	/	/	/	◎ ユニット会で、介護計画の内容が検討され、職員間に周知され、情報を共有している。また、介護計画やアセスメントシートなどの情報が綴じられた利用者ごとの個別ファイルが各ユニットの事務所の棚に置かれ、職員はいつでも確認することができるようになっている。さらに、計画に沿ったサービスの実施状況は、ケア行動計画実施記録用紙に記載され、職員間で状況を把握しやすくなっている。また、日々の記録には、利用者が発した言葉のほか、普段と違う言動等も記録に残されている
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	短期目標を記載して、実施記録を記入し、毎日の確認と1カ月の状況確認をユニット会で話し合っている。気づきはノートへ記入している。	/	/	/	◎
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	介護計画の期間に見直しをしている。入退院などの後は、継続できるか暫定プランから始める時もある。	/	/	/	◎
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	新たな要望や変化が見られない場合は、介護計画の期間に確認している。ユニット会で毎月1回は確認している。	/	/	/	◎
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院後の再入所時や、心身状態に変化がある時は、見直しをしている。必要と感じる時は、暫定プランを作成するときがある。	/	/	/	◎
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ユニット会を基本としているが、朝の申し送り時や、その後のユニットメンバーで適宜話している。緊急時は申し送りノートや気づきノートを使っている。	/	/	/	○
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	発言する社員が限定されている時がある。限られた時間と参加できるメンバーでのユニット会になっている。	/	/	/	○
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	△	コロナ対応で、全員が集まることを避けている。いつも一緒に仕事をしているユニットメンバーとユニット会のみ開催している。会議録を回覧して、申し送りノートも活用している。	/	/	/	○
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートを毎日確認して、サインをしている。受診時は病院へ送付したFAX用紙に、受診した内容を記載して、皆で共有している。パソコンで受診記録を閲覧できるようにまとめている。	◎	/	/	○
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その時にしたい事を、限られた職員数で、できるだけ叶えられる努力を日々行っている。全員に実施できない日もある。	/	/	/	○
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴、排泄、更衣、食事場面で、選んでもらう機会を作っている。不安や混乱がある利用者へは、好まれるものを職員が勧めている。	/	/	/	○
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の生活リズムを優先して、ゆっくりと生活できるよう支援している。基本的な時間は決めて、タイミングを図りながらペースを見て合わせている。	/	/	/	○
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が利用者の輪に入り、気の合う利用者テーブルを囲み雰囲気づくりをしている。	/	/	/	○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	スキンシップを行い表情の変化を見ながら支援している。	/	/	/	○
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	○	勉強会や朝の申し送りで、接遇マニュアルを意識して、言葉かけや態度を意識している。小松の里の心がけ「あたたかく、さりげなく、気づき目くばり」を意識しながら対応している。	◎	◎	○	○
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	他者から見えにくいような配慮や、露出が少なくなる配慮をしながら介助している。見守りを行う際に、戸が開いたままとなっている時がある。	/	/	/	○
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室前にノックを行い、入っても良いか確認してから出入りしている。掃除や洗濯物をしまう時も声かけしてから入室している。	/	/	/	◎
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に会社と職員でプライバシー保護の書類を交わして漏洩しないよう厳守している。	/	/	/	○

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に向けてもったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	介護を行う場面でも、手伝ってもらった声かけや、教えてもらう態度で接している。手伝ってもらった時は、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	日々の生活の中で、職員は声をかけて、利用者が料理の下ごしらえや野菜の水やりなどを手伝うこともあり、手伝ってもらった後には、必ず「ありがとうございました」などの感謝の気持ちを伝えている。日頃から、利用者同士の助け合いや支え合う場面も多く見られ、訪問調査日には、利用者がチラシで作ったゴミ箱とティッシュを他の利用者に渡したり、声をかけて、一緒に洗濯物をたたんだりする様子を見ることができた。また、職員は利用者同士の関係性を把握し、仲の良い利用者同士と一緒に過ごせるように配慮したり、言い合いなどのトラブルが発生しそうな場合には、職員が目配りをして早期に間に入り、否定せずに双方の話を聞いたりするなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が協働できる座席の配慮を行い、支えあう事を理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	△	その時の気持ちを考えながら、心地よく関係が良好になるように、支えあう関係ができるように、座席の配慮を行っている。利用者の方で他者の行動に不満が多い方が、否定したり怒ったりと、攻撃的になるため、狭い空間では難しいと感じる。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの原因を考え、双方が安心できるように、声かけを行っている。どちらの発言も否定しないように努めている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入所前の面接で、関係を聞き取り、面会時に家族より、関係について情報を得ている。利用年数が長くなると、家族以外との関係が少なくなっている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	利用が長くなった利用者は、施設内での馴染みの関係作りが出来ている。コロナで窓越し面会やリモート面会から居室内面会や外出と少し緩和出来始めたので、途切れないように配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外に出たい気持ちの時は、とりあえず戸外へ出るように対応している。全く出ようとされない利用者は、社員が誘っている。中庭や2階のベランダに出て外気浴を行っている。	○	○	○	感染対策が続き、一定の外出制限が設けられているものの、天気の良い日のほか、利用者から外出希望が出された場合には、中庭や事業所周辺を散歩したり、ベランダに出て外気浴をしたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、通院の送迎時には、管理者等が遠回りをして、車中から利用者が季節の花や海などの景色を眺められるような支援も行われている。さらに、制限はあるものの、家族との外出も可能となり、利用者に喜ばれている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ対応で社員と家族以外の外出支援は行っていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	申し送りで状況を聞きながら、認知症を理解できるように、色々な対応を話し合い、検討をしている。	/	/	/	日々の申し送りなどの中で共有した利用者の情報をもとに、認知症の行動や心理症状、身体機能の低下等を職員間で話し合うとともに、看護師や理学療法士からアドバイスをもらい、認知症に関する理解を深めている。また、日々の支援の中で、職員は利用者一人ひとりのできることやできそうなことを把握し、着替えや入浴の洗身等のできることは時間が掛かっても自分でしてもらい、見守りやできない部分のサポートをするなどの待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	申し送りで状況を聞きながら、認知症を理解できるように、看護師や理学療法士のアドバイスを参考に検討をしている。身体面の機能低下について、理解を深めて、維持向上が測れるように努めたいと考えている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事や出来そうなことの気づきを、職員同士で話し合い、できるだけ、行ってもらうようにしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	入所前の聞き取りも参考に、手先を使う事なども新たに行ってもらい、興味のあることや、積極的にやりたいことの把握に努めている。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、料理の下ごしらえ、お盆拭きなど、職員は声をかけ、利用者のできることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。また、脳トレや塗り絵、風船バレー、散歩、動物との触れ合い、野菜の世話や収穫、食べたい食事のデリバリーなど、利用者一人ひとりの楽しみごとを生活に取り入れ、張り合いや喜びのある暮らしができるよう取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	できることを、役割として行ってもらっている。タオルたたみやお盆拭き、塗り絵や風船バレー、誕生日会やXmas会のイベント、散歩を提供して役割や出番を作れるように支援している。	◎	◎	◎	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	着たい服を着ていただき、着こんでしまう方や肌着を上に着てしまう方、重ね着をする方へ、さりげなく着替えてもらっている。	/	/	/	起床時に、職員は声かけや見守りを行い、自分で服を選んで着替え、身だしなみを整えることのできる利用者もいる。外出や行事の際に、自分で髪型を整えたり、化粧をしたりするなど、おしゃれを楽しむ利用者もいる。また、食べこぼしなどの衣服の汚れが見られた場合には、職員がさりげなく拭き取ったり、居室に移動して着替えてもらったりするなどの対応をしている。さらに、重度な状態の利用者にも、本人らしさが保てるように、家族が持参した好みの服を着たり、訪問理美容を利用して、利用者の好みの髪形に整えてもらったりするなどの支援も行われている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	近隣のパーマ屋に希望を伝えて、利用者が好まれる髪型になるよう支援している。持参されるお気に入りの服は使用してもらっている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者に聞くと不安や不穏になる場面が多く、社員が選んだ服を着てもらうことが主となっている。持ち込みされた馴染みの服から選んでいる。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	病院受診時は、利用者がよそ行きと感じている服を選んで、選んだ服に着替えてもらっている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく綺麗に整えている。間違えていても、無理強いしない対応をしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	近所の美容院が馴染みの関係となり、希望を聞きながら散髪してくれている。馴染みの店には外出禁止のため対応できていない。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	家族からも好みを聞き取り、本人の好まれる服など持ち込まれている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	下ごしらえから、音、匂いなど、食べる前から感じられる生活臭と、見た目や味など大切にしている。食欲が沸くように気をつけている。	/	/	/	各ユニットの職員が、栄養バランスなどを考慮した献立を作成し、職員が買い物に出かけて、利用者に調理の下ごしらえやお盆拭きなどを手伝ってもらいながら、朝食と夕食を職員が調理している。職員の人材不足もあり、昼食は副食のみ外注したレトルト食品の湯煎や盛り付けを行い、炊飯と汁物を合わせて、利用者に提供をしている。利用者の希望に応じて、朝食をパンに変更したり、店舗から寿司やピザなどをデリバリーしたり、誕生日会には、利用者が食べたい物を提供するなど、利用者に食事を楽しんでもらえるような支援にも努めている。入居時に、アレルギーの有無や苦手な食材を確認するとともに、日々の会話の中で聞いた苦手な食材や食べ残しなどを確認し、必要に応じて代替えの食材を提供している。飲み込みの悪い利用者には、彩りや見た目を意識しながら、食べやすいミキサー食や刻み食などの形態に対応をしている。利用者の個々の状態や習慣に応じて、食事量や水分摂取量に注意を払うとともに、食事やお茶等で補えない場合には、医師や家族と相談して、栄養補助食品を摂取してもらうこともある。食器類は、事業所で使いやすい物が用意され、茶碗やコップ、箸は、利用者好みの色や柄を選んでもらっている。感染対策のため、食事の際に、職員は利用者との会話をしながら見守りや食事介助を行い、別々の場所で食事を摂るようになってきている。リビングに面したオープンキッチンから、利用者は調理の音や匂いを感じる事ができ、食事時の職員との会話を通して、食事が待ち遠しく思えるような雰囲気づくりが行われている。また、ユニット会を活用して、献立のバランスや調理方法等を職員間で話し合うとともに、必要に応じて、法人の栄養士に食事形態等の相談することもできる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	朝と夕はユニットでメニューを考え、リクエストを聞きながら献立を作り、できる方には、食材の下ごしらえを行ってもらえる支援をしている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	調理の下ごしらえや、後片付けを出来る利用者へお願いしている。買い物、調理、盛り付けは混乱や不安が多く、利用者から清潔不潔で文句も出るのでできない。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所前の面接時にアレルギーや苦手な物を聞いている。生活が始まり、毎日の会話で聞き取りや、食べ残しを見て把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	昼食がレトルトになったため、今までより提供するメニューが大幅に少なくなっている。誕生日会を利用者の誕生日に合わせて行い、リクエスト食の提供は続けている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	嚥下や咀嚼を確認して、彩りや見た目を意識して、食べやすさの配慮も意識しながら、綺麗に盛り付けしている。ミキサー食の方にも、飲み込みやすい食事の時は、安全を確認して普通や刻みで出すこともある。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者のこだわりを優先して、利用者を選んでもらっている。使っている様子も確認している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	コロナ感染予防で、利用者と食卓を囲み一緒に食べることは行っていない。利用者の食べる様子はしっかりと確認して、さりげなくサポートするようにしている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理のにおいや音を大切に、ユニット内で朝と夕は調理している。配膳後も、意欲が高まるように声かけを行っている。食べる時間もその時々で、利用者のペースで行っている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分摂取量は、十分にとれるように気をつけている。食事やお茶で補えない時は、メイバランゼリーやエンシュワリキッドも活用している。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分摂取の少ない方には、好みの飲み物やお茶の時間に限らず回数を増やして出している。水分量が少ない日に、主治医へ相談して必要時は通院で点滴を行っている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	職員でバランスや調理方法を話し合い、ユニット単位でメニューを決めている。現在は栄養士の指示が必要な利用者はいない。必要時は西条市民病院の栄養士と連携を図る。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食中毒への予防や衛生管理は気を付けている。食事直前のテーブル消毒や手指消毒も毎回行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながる事を、研修や勉強会で学び理解している。大谷歯科往診で学ぶ機会も増えている。	/	/	/	職員は研修や勉強会で学ぶとともに、歯科医や歯科衛生士から助言を受けて、口腔ケアの必要性や重要性を理解している。毎食後に、職員は利用者へ声をかけ、洗面台に移動して歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りや磨き残しなどのサポートをするとともに、自分で口腔ケアをすることが難しい利用者には、スポンジブラシやガーゼなどの適切な口腔ケア用品を使用した介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、口腔内に異常が見られた場合には、訪問歯科診療や歯科受診に繋げている。さらに、義歯の管理が難しい利用者には、夕食後に預かり、洗浄剤に浸けて洗浄するなどの対応をしている。介助を必要とする利用者の口腔内の状況は把握することができていない。管理者から、「自分で歯磨きをしている利用者の中には、口の中を見せることを拒否する人もいるため、無理強いはいしていない。状態が悪くなる前に見せてもらえるように、日頃から声かけするなどの工夫をしていきたい」との話を聞くことができた。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診の依頼をしている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科往診時に、個別に気を付けるポイントを教えてもらっている。他の利用者へも学んだ知識を参考にしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	無理強いしないように、手入れを行っている。入れ歯洗浄剤も活用している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	口腔ケア時に目視して、気になる時は、家族へも説明し同意のもとで、歯科受診や往診を依頼している。どうしても拒否され自力で歯磨きする利用者には難しい。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	勉強会でトイレでの排泄の重要性や、おむつ使用による精神的負担を把握し理解している。布パンツから紙パンツへの移行については、かなり慎重に行っている。経済的負担も配慮している。	/	/	/	事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している。一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握するとともに、職員はトイレに行きたい時の表情や動きに気づき、声かけやトイレ誘導等の支援をすることで、日中に布パンツを履いて過ごすことができていない利用者もいる。布パンツから紙パンツに変更する際は、職員間で話し合い、利用者の精神的や経済的な負担を考慮し、慎重に対応をしている。また、利用者の排泄状況に合わせて、パッドや紙パンツなどの適切な排泄用品が使用できるように、定期的に職員間で話し合うとともに、利用者や家族に相談の上で、使用や変更をしている。さらに、果物やヨーグルトを摂取してもらったり、水分補給を勧めたり、センナ茶を飲んでもらうなど、利用者の自然排便を促すような取り組みも行われている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事、水分量や、運動不足などの原因及び、便秘が周辺症状に影響することを理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	訴えられない利用者の行動をみながら、排泄したい気持ちを行動や表情から予測している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄チェック表を参考にして利用者の排泄パターンを把握し、利用者の排泄したい気持ちを尊重し支援に努めている。家族への購入コストも高くないように、業者を紹介している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	普段の生活場面を見直し、主治医とも相談して、改善できる点を模索している。センナのお茶を煎じて、調整もしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者の動きや訴えに応じて、行きたい気持ちを予測してトイレの案内をしている。無理強いはいしないように気を付けている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	自己負担でおむつを使用する利用者は購入してもらうため、その時々で注文の種類を検討している。朝と夕のユニット内での申し送り、どの種類が良いか、変化がある時に検討している。購入前に業者がサンプルをくれるので、試もしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	家族にも状況を共有してもらい、適宜使い分けできるように選んでいる。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	くだものや、ヨーグルト、センナ茶など、できるだけ自然に出るように取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	毎日入れる状況を作り、入りたい気持ちになっているタイミングで入浴できるように支援している。回数も決めずに、誘い入れるようにきっかけを作っている。	◎	/	◎	事業所では利用者が入浴できる曜日を固定せず、午後の時間帯に入浴支援をしている。少なくとも週2回以上利用者が入浴してもらえるように対応しているが、中には入浴を拒む利用者もあり、無理強いをすることなく、日にちや時間帯の変更をしたり、「私の用事に付き合ってください」などと、その気になるような声かけをしたりするなどの工夫をしている。利用者の希望に応じて、入浴の時間や回数、湯の温度、湯船に浸かる長さなどに、可能な範囲で柔軟に対応している。また、入浴剤を入れたり、冬至にゆずを浮かべたり、好みのシャンプーを使用するなど、少しでも利用者に入浴を楽しんでもらえるような工夫も行われている。さらに、利用者の羞恥心を配慮して、個別に脱衣して入浴してもらうとともに、職員と会話をしながら、ゆったりとした入浴ができるよう支援している。乾燥肌の利用者には、入浴後に保湿剤を塗布するなどの対応もしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	1人ずつ入浴できるように、ゆっくり利用者のペースで入浴してもらっている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できている事は手伝わないで見守りや声かけで入浴してもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	家族からも自宅での習慣を聞きながら、入りたい気持ちになるよう支援している。誘い方も工夫して、浴室までの案内を行っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴介助の手順書を参考に、健康状態の把握をしている。いつもと血圧や脈拍が違い不安な時は、主治医に相談して指示を受けている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	自宅での様子や入院中の様子を本人及び家族へ聞き取り、ホーム内での眠れる時間を把握している。	/	/	/	事業所には、入居前から継続して眠剤を服薬している利用者があるものの、日中の過ごし方を工夫したり、適度な水分補給をもらったり、空調や湿度等の環境面を整えるなど、医師と相談しながら、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。夜間眠れない利用者には、職員が付き添って眠たくなるまでリビングでゆっくりと話を聞くこともある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昨夜の様子や日中の様子を確認しながら、気持ちよく眠れる工夫を検討している。空調や湿度も確認している。夜中に希望時は水分補給もやっている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠導入剤や安定剤は極力使用しないで、生活リズムが整えるように、日中の過ごし方、体調、水分量などを検討し、往診で主治医に適宜相談している。必要な方は精神科に受診もしている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	夜間眠れないから寝させない対応は行わず、疲れ具合に応じて日中も休む時間を取り入れている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者からの要望に応じて、支援している。年賀状は届いた方に利用者名で返事を送っている。電話も希望時には直ぐに行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話番号を教えて自らかけている方もいる。自分でかけられない方は、希望があれば、職員が番号を押してコードレス電話で話してもらっている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	コードレスを使用して、部屋で電話できるようにしている。リモートは事務所で個別に行っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	封は開けずに、本人へ渡し、本人に開けてもらい、希望があれば、代読している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	限られた利用者の家族から電話がかかっている。手紙やハガキも限られた家族より届いている。本人から電話をかけることは、家族も了解している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	小銭を持っている方は数名いるが、持っているだけでも本人の安心につながっている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物に行きたい意向がない。勧めても希望されない。いつでも買い物に行ける事は会話の中で伝えている。広告を見て話題提供もしている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	所持することで、不安や混乱が強くなる場合は、家族と相談しながら、家族が管理するほうが、QOLが高まるか検討している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	常に状況に応じて、本人及び家族と相談して決めている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	基本的には、預からないようにしていて、ホーム立替で引き落とし、領収書を家族へ送付している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	職員人数と相談しながら、個別にできるだけ希望に添えるよう取り組んでいる。利用者家族の要望や意見を職員同士で話し合っている。	◎	/	○	利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟に対応できるように努めている。遠方などに住んでいる家族には、管理者等が病院受診の同行支援をしたり、入居時に重い荷物を運ぶことが難しい独居の利用者には、職員が荷物運びを手伝ったりするなどの対応をしている。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	朝7時から夕方17時までは、施錠しないで、常に入出入りできるようにしている。外部の方も玄関まではいつでも入れるようにしている。	◎	◎	○	事業所の敷地内は広く、ゆったりと駐車できるスペースが設けられ、車で来訪しやすくなっている。また、玄関前の花壇には、紫陽花等の季節の花が植えられ、明るく来訪しやすい雰囲気を感じる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	作り自体が、利用者のイメージしている大正や昭和の雰囲気ではないが、食事作りの音や匂い、生活臭が感じられる環境となっている。壁に利用者職員で作成したカレンダーを貼り、好みの歌を流して心地よい環境作りに努めている。	◎	◎	○	玄関スペースには、観葉植物や人形等の飾り物、自動販売機等が置かれ、中庭に通じる玄関を入ると、開放的な空間となっている。リビングには小上がりの畳スペースが設けられ、利用者は洗濯物たたみをしたり、くつろぎながら休憩したりすることもできる。廊下には、季節の飾り付けや塗り絵等の利用者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気を感じることもできる。また、かわいい動物の写真が壁面に貼られ、職員から「外出願望のあった利用者が、動物の写真を見ることで穏やかになり、外に出ることがなくなった」などの話を聞くことができた。事業所では、敷地内で旬の野菜が栽培され、利用者が水やりや収穫をするとともに、犬や猫が飼育され、楽しみながら触れ合うことで、利用者の穏やかな生活にも繋がっている。日々職員の掃除が行われ、空気清浄機も置かれるなど、不快な音や臭いもせず、気持ちよく過ごせるような空間づくりも行われている。窓から、自然豊かな山々などが眺められ、中庭にある大きなケヤキの様子が見えるなど、利用者は四季の移ろいを感じることもできる。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	利用者にとって不快にならないように、配慮している。掃除も丁寧に行っている。					○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食事作りの音や匂い、生活臭が感じられる環境となっている。観葉植物や思い出のある人形や置物も飾っている。						○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者同士で、安心できる座席があり配慮している。ソファを置いたり、玄関フロアや中庭も活用している。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に家族と本人へ、馴染みの物を持ち込んでもらい、家族が持ち込めない時は、職員が付添い荷物を運んでいる。	◎			○	居室にはベッドやエアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。リースの布団が用意され、利用者は使用することもできる。使い慣れたタンスやテレビを持ち込んで配置したり、思い出のある家族写真を飾ったりするなど、個々の利用者に応じた居心地良い空間づくりをしている。また、職員が毎日居室内の掃除を行い、整理整頓が行き届くなど、清潔に保たれている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者が安全に使いやすいよう、手すりや車椅子専用トイレの手すり取替を行っている。全てを排除するのではなく、極力間違いにくい環境にしている。間違っても、さりげなく取り除くなど、自尊心を気づけられないようにしている。				○	共用空間の整理整頓が行き届き、壁やトイレに手すりが設置されるなど、車いすや歩行器を使用する利用者の動線が確保され、安心安全に移動することができるようになっている。また、トイレには、「便所」と表記が行われ、居室の入り口には、利用者の氏名を表示するなど、利用者が混乱せずに居場所を認識できるように工夫をしている。さらに、リビングには新聞やチラシのほか、趣味の道具が置かれ、利用者が自由に手に取ることができるようになっている。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	活動意欲を触発するように、ほうきや、回転モップ、新聞や広告、趣味の品など置いている。怪我につながる裁縫道具やハサミなどは、依頼があれば、すぐに出せるようにしている。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	鍵をかける事への弊害を職員全体で理解して、緊急性を除いては、常に施錠しないようにしている。17時以降は防犯対策で、自宅と同様に施錠している。屋外からの侵入を防ぐ目的。内側からは、玄関も開けられる鍵にしている。利用者の行動を予測して、出たい気持ちの時は、職員が付添い出かけて、落ち着いてもらっている。	◎	◎	◎	日中に、玄関やユニットの出入口の鍵はかけておらず、17時から7時までの夜間帯のみ玄関等の施錠をしている。防犯目的で、夜間の施錠をしているため、内側から職員が開けられるようになっている。また、ユニットの出入口には鈴をつけて、職員が利用者の出入りを気づきやすくしている。また、職員は勉強会等を通して、鍵をかけることの弊害を理解し、外出願望のある利用者には寄り添って話を聞いたり、一緒に屋外に出て散歩をしたりするなどの対応をしている。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時に十分説明して、納得してもらい利用が始まっている。また、安全確保のため、職員が付添いしている状況を伝えて理解してもらっている。						
(4) 健康を維持するための支援											
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前の情報を共有して、アセスメントに病歴を記載し、把握に努めている。						
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体状況の変化や異常のサインは、カルテや申し送りノートを活用して、早期に発見できるよう努めている。受診した記録だけをまとめて、振り返りができるようにしている。						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	協力病院の西条市民病院へ連絡し、常に担当看護師や医師に確認している。通院時にFAXした事も医師からの指示をカルテに閉じている。内科、外科以外の専門領域は、近くの病院を受診している。						
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	かかりつけ医の希望を聞いて、大半は協力病院の西条市民病院だが、専門医は併用して通院介助をしている。	◎					
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人及び家族の希望と受診時の負担を優先して、かかりつけ医と連絡相談を行っている。						
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院前に家族へ説明して、通院時に家族も立ち合える配慮をしている。通院介助は施設で行い、家族が立ち会えない時は、受診後に報告している。						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	介護サマリーを入院当日に病院の担当看護師へ情報提供して、口頭でも配慮してほしい所を伝えられている。西条市民病院専用の情報提供書も作成している。	/	/	/	事業所では、「重度化した場合の対応に係る指針」を整備し、入居時に利用者や家族等に対応できることやできないこと、急変時の延命治療などの説明をしている。状態の変化が見られ、重度化した場合には、家族に意向を再確認するとともに、医師や看護師、職員を交えて話し合い、今後の方針を共有している。また、事業所内で、安心安全に利用者へのサービスが提供できないと判断された場合には、医師から家族に説明が行われ、今後の病院や他の施設などの受け入れ先を家族と一緒に検討をしている。職員の聞き取りから、「利用者に住み慣れた場所で最期を迎えてもらいたいと思うが、今の職員体制では看取り支援は難しい」などの意見が聞かれた。
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の洗濯物を施設が取りに行くことで、病院の関係者と話す機会が常にあり、情報交換を密に行っているため、早期退院につながっている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	夜勤専属看護師や常勤看護師へ日頃の様子や、受診した結果など報告し、容態が気になる時は、様子をみてもらっている。看護師不在の時間は、かかりつけ医や外来看護師、休日など病院が休みの時でも、入院担当看護師に相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力病院は夜間でも相談できるように配慮されている。当直医が相談に乗ってくれる。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	朝昼夕に血圧、脈拍、熱を測定して、状況に応じて血中酸素濃度も測定しているため、変化には気づきやすい。気になるときは、外来看護師や主治医に相談している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師から指示がでた処方内容が詳しく書かれた書類を保管して、薬剤師の説明を聞いている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬剤師が一包化した薬を指示通り飲んでもらえるように、薬袋の色分けや、本人確認、飲み込み確認を行っている。薬箱も活用している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	普段の状態と違って来た場合に、常に副作用が影響していないか、追加された薬など影響がないか確認している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。急変時には、延命治療を希望するかなど、入居時に確認している。	/	/	/	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	医療行為の必要性など、グループホームで安全に提供できないと予測される段階で、主治医から説明をしてもらい、受け入れ先を家族と一緒に検討している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	環境面や医師の協力(死亡時の訪問など)が整わない。現状では、救急搬送後に死亡診断や、突然死の場合は警察の検死となっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所前の説明や、状態の変化に応じて、出来る事できない事を十分に説明して、理解してもらっている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度化した場合に、適宜、本人に安全で快適に過ごせる場所を家族と一緒に考えている。グループホームで環境面での改善は考えていない。同じグループ内で支える事や、近隣の施設を提案している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	最後まで責任を持って住み続けられるように、その時々で施設紹介などを説明している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症について、毎年勉強会を実施していたが、コロナ対応で全員が集まることを避けているため、見逃し配信動画で研修している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	コロナ感染により、予防衣やフェイスシールド、N95マスク、ゴミの処理方法など、実践で見につけることができている。忘れないようにオンライン見逃し配信動画で研修している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	愛媛県の情報を元に、往診時に主治医から聞くなど、情報を早く入手している。保育所や小学校中学校の情報を、職員から得て、流行を把握している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	介助の後は手洗い又は消毒を徹底している。自宅での検温後、入室前に検温、ユニット内での検温を実施。マスク着用も徹底している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	月に1回の日常生活報告書送付とケアプラン作成時に日常の様子を伝え、現状を把握してもらえるように伝え、一緒に支えてもらえるよう話をしている。	/	/	/	感染対策が続き、家族が参加できる行事の開催は休止しており、一定の制限は設けられているものの、家族との外出や居室での面会が可能となり、利用者や家族に喜ばれている。今後管理者は「感染状況を見計らいながら、以前に実施していた行事を再開し、家族との交流を図りたい」と考えている。家族には、毎月利用者の近況報告や行事、介護計画の実施状況等を記載した日常生活・ケアプラン実施状況報告書を送付して、利用者の近況を伝えている。また、2か月に1回、事業所の広報誌を送付するとともに、ブログに掲載し、事業所の活動状況を伝えている。事業所の運営上の事柄や出来事は、運営推進会議の中で報告するほか、内容により電話連絡を行うこともある。さらに、家族が意見や要望を伝えて、気軽に相談に応じられるように、面会時に職員から声をかけて、コミュニケーションを図るなど、良好な信頼関係が築けるように努めている。加えて、ユニット用の携帯電話が準備され、職員は電話連絡やショートメールで家族との連絡を取り合うとともに、家族から24時間相談が受けられる体制を整えている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	面会時は部屋でゆっくりと他者を気にせずに、面会できるよう配慮している。居室内での面会と外出も徐々に出来るようになっている。家族以外の入室は禁止している。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	日常の様子を毎月1回、日常生活・ケアプラン実施状況報告書で郵送して伝えている。介護計画作成時は、遠方の家族へ電話して意向を確認している。2か月に1度作成している広報紙も郵送して、ブログにも掲載している。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入所後は、家族がしっかりと休息できて、気持ちに余裕が持てるよう支援している。在宅介護で大変と感じていた内容を聞き取り、ホームでの対応を伝え参考にしてもらっている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議を書面開催で2か月に1回報告を行っている。運営上の事柄、職員の異動や入退職、入院や入所などを伝えている。	◎	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ホームの職員体制と環境の説明を行い、利用者個別に起こり得るリスクを説明し、対策も伝えている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	些細な事も報告して、面会時も気軽に話してもらえるように、職員から話しかけている。少し様子が気になり、施設で様子を見ている時や、受診する前後での状況をショートメールや電話で適宜報告している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入所時の説明を丁寧に行っている。事例なども伝えている。良い面や悪い面も伝えている。契約時や変更時に料金の内訳を文書で示し、丁寧に内訳を説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退所の時も経済面や環境面、その時々々の身体状況に応じて具体的な説明を行い、本人が安心できる所に住み替えできるよう支援している。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議のメンバーや、地域の方から質問があれば、適宜説明している。	/	○	/	感染対策が続き、地域行事に参加することはできていないが、事業所周辺を散歩したり、犬を散歩させたりする時には、出会った地域住民と挨拶や会話を交わしている。また、地域にある小松公民館から、作品の出品依頼が寄せられた場合には塗り絵の作品を出展したり、小松中学校で開催される運動会の際に事業所の駐車場を開放して提供したり、地域の美容室に訪問美容をお願いするなど、少しでも利用者が地域と繋がりを保てるように取り組んでいる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	ホーム周辺を散歩しながらあいさつをしている。小松中学校の生徒や先生が犬の散歩中に挨拶する事が多い。中学校の運動会で小松の里敷地を駐車場利用してもらい、生徒の保護者と連携を図っている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	顔見知りの地域の方が増えるように、あいさつを行っている。犬の散歩での顔なじみの方も増えている。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	運営推進会議をきっかけに、気軽に立ち寄れる関係を作っているが、現在はコロナ対応で立ち寄れない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常のおつきあいをしている。	○	運営推進会議をきっかけに、気軽に立ち寄れる関係を作っている。草引きをしながら、隣の畑の方と会話したり、犬の散歩も効果的に感じる。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	散髪依頼を近所の、のりこ美容室に依頼している。コロナ対応でその他の広がりには作れていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	小松図書館より毎年、作品依頼があり、出展している。中学生との交流は現在中止している。先生とのやり取りは続けている。散髪は近所の美容室に来てもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	書面開催で集まることは行っていない。令和6年10月30日にホームで開催予定。	◎	/	○	感染対策に伴い、運営推進会議は書面開催が続いていたが、令和6年10月から対面形式で会議が開催できるようになっている。事業所の多目的室で会議が開催され、家族や市担当者、地域住民、駐在所の巡査部長等の参加を得ることができている。会議では利用者の状況や行事報告、サービスの実施状況などを報告し、参加メンバーと意見交換をしている。また、議事録はファイルに綴じて、1階ロビーに置かれ、来訪者等が自由に閲覧できるようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	外部評価の後に、報告している。防災対策は何度かテーマとして協力を仰いでいる。書面開催が続いていて、議事録の公表は出来ていない。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	書面開催後に次回予定日を伝えている。ホームで開催できた後に、参加者へ希望を聞くように考えている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	名札の裏に理念を入れて、いつでも確認しながら仕事ができるようにしている。仕事中は名札をしていないため確認することが少なく、理念を理解している社員は少ないと感じる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	施設内に提示している。運営推進会議に参加されていた方には、理念を伝えていた。外部評価前には理念を書いた紙を送付している。	◎	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者が代表して、代表者へ今の状況を伝え、必要な研修など受けられる配慮をしてくれている。コロナ対応で現在はオンライン研修となっている。	/	/	/	グループを含めた組織の規模が大きいため、代表者が来訪する機会はほとんどないものの、月1回法人の管理者会議が開催され、管理者を通して代表者に事業所の運営状況等を報告している。令和6年から、新たに各ユニットに主任が配置され、業務の効率化や情報共有の円滑化に努めている。また、法人では、オンラインの外部研修の受講ができるように整備したり、資格取得を支援したり、キャリア段位制度を参考にしながら、職員がスキルアップを図れるよう取り組んでいる。定期的に、QRコードが付けられた資料が職員に配布され、オンラインで都合の良い時間帯に学べる機会も設けている。日頃から、管理者は職員の顔色や表情に注意した目配りや、こまめに声をかけることにより、職員から気軽に相談してもらうことができている。職員の聞き取りから、「管理者には仕事の相談がしやすく、具体的な助言をしてもらえる。職員同士の仲が良く、働きやすい環境である」との話を聞くことができた。今後は、職員へのストレスチェックやアンケートを実施したり、福利厚生の実施や有給休暇の取得を促したりするなど、法人と協力をしながら、職員のストレス軽減に向けた取り組みが行われることを期待したい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	キャリア段位制度を参考に、働きながらスキルアップできる取組を続けている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	×	管理者が代表して、代表者へ今の状況を伝え、給料面や手当など、特に頑張っている職員へ配慮してもらっている。社員不足が続く状況で向上心を持って働ける状況ではなくなっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	代表者は外部との交流や研修に費用を惜しまず、行きたい研修に参加できるように予算を入れてくれている。コロナ対応でオンライン研修となっている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	ストレスを分散するのは難しい。そういった環境づくりはできていないと思う。	◎	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	勉強会でみんなが集まる機会を中止している。以前に配布している資料や、朝の申し送り、適宜管理者より伝えている。また、身体拘束のオンライン研修で虐待防止についても説明している。	/	/	○	感染対策が続き、全ての職員が集めた勉強会は休止されているが、定期的に虐待防止等がまとめられた資料が職員に配布され、オンライン研修を受講する機会が設けられるなど、理解促進に繋げている。また、不適切なケアが見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、ケア内容に応じて、管理者に報告し、該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。申し送りなどの機会を活用して、職員への周知を図り、再発防止に努めている。訪問調査日には、気づきノートに利用者の○○などの具体的な状態を記載するとともに、可能性や気づきの情報収集や再発防止に繋げる呼びかけをするなど、職員間で意識の高いもちながら、虐待や不適切なケアの防止に向けて取り組む様子を確認することができた。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝の申し送りで振り返りを行っている。必要に応じて個別に聞き取り確認をしている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	注意を払い点検している結果として、職員が離職する事があるが、不適切な対応は見逃さず注意している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	身体拘束を行わない施設として、意識しながら仕事をするプロ意識を高く保っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	朝の申し送りや勉強会、ユニット会で適宜話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	入居前から身体拘束の弊害について説明し納得の上で利用してもらい、必要性がある時に状況説明と対策を家族へ説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	管理者から家族へ対象となる制度の説明を行い、西条市の相談窓口への紹介や、詳しく説明できる社会福祉士と連携している。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターや社会福祉士会、社会保険労務士と相談できる窓口を常に作っている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成して、周知している。事故が発生した時は、朝の申し送りで、状況説明を行い、次に同じことが起こらないように考えるようにしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	応急対応や初期対応の訓練を消防避難訓練時に、自主訓練で行っている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ユニット内での気づきノートを作成している。再発防止は常に検討している。月に1回のユニット会でも検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ユニット内での気づきノートを作成して、朝の会で共有している。月に1回のユニット会でも検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルは作成していないが、相談内容を職員が把握して、改善に向けてユニット会で事例が上げられ検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	内容を確認しながら、管理者が窓口となり、必要に応じて市役所への報告も行っている。会社の代表者や部長、総務部に報告して、会社としても方向性も確認している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	事例がないが、苦情があれば、納得が得られる前向きな話し合いを行うように心がけている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に苦情や相談に対する意見箱を設置している。意見箱に用紙が入ることがない。個別の相談は、管理者の会社携帯へ24時間相談できるようにしている。	◎	/	○	事業所内外に相談窓口を設けるとともに、玄関に意見箱を設置するなど、入居時に利用者や家族に苦情対応や相談窓口などの説明をしている。また、各ユニットに24時間対応できる携帯電話が用意され、いつでも家族等から管理者や職員と相談ができる体制を整えている。日々の生活の中で、利用者から「〇〇が食べたい」などの意見や要望が出された場合には、職員間で検討し、可能な範囲で対応をしている。さらに、日頃から管理者は、職員とのコミュニケーションを大切に考え、職員一人ひとりの意見や提案を聞きながら、利用者本位のサービス提供に繋がられるような支援にも努めている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	要望や苦情があれば、国保連や市役所が窓口となっている事を契約時以外にも伝える体制はある。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	×	職員の意見や要望等を直接聞く機会を持っていないと感じる。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	ユニットリーダーが年に1回は面接を行い、利用者本位の支援を確認している。勤務中に雑談することも参考になっているが、個々の意見や提案を聞く機会がもっと必要だと感じる。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価はいつでも回覧できるようにして、全員で評価内容を確認している。	/	/	/	全ての職員が外部評価の自己評価に参画し、管理者と主任が出された意見を取りまとめて作成している。感染対策により、書面での運営推進会議の開催が続き、書面でのサービスの評価結果や目標達成の取り組み状況の報告に留まっている。令和6年10月から集合形式の会議が開催できるようになり、今後は集合形式の会議の中で、評価結果等や目標達成計画などを報告するとともに、目標の達成状況を確認のモニターの協力を呼びかけて、意見をもらうなど、サービスの質の向上に繋がられるような取り組みが行われることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	サービス評価の項目に沿って、グループホームらしきに向かってサービスできるように話し合っている。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	運営推進会議が書面開催のため、また外部の面会も禁止しているため難しい。	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	運営推進会議が書面開催のため、また外部の面会も禁止しているため難しい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災、風水害を中心にマニュアルを作成して、玄関フローアに提示している。年に1回～2回は会社全体で、風水害の避難訓練と年2回はホームで火災総合訓練を実施。	/	/	/	年2回、火災などを想定した避難訓練を実施している。感染対策もあり、職員と利用者だけの訓練となっている。日頃から消防署の職員や地域の駐在所の職員に運営推進会議に参加してもらうなどの連携を図ることができている。以前は、小松中学校で行われた市の総合防災訓練に参加協力することができていたが、現在は参加していない。また、事業所の多目的室に水や食料品などの備蓄品を用意している。さらに、事業所の玄関や廊下の壁面等には、非常時の連絡網や避難経路等の災害マニュアルが掲示され、家族等の来訪者に事業所で実施する災害の備えを周知できるように取り組んでいる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	作成している計画書に沿って、避難訓練をしている。主に夜間中心となっている。安全のため利用者の参加は見学程度で、社員が中心となっている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	業者が点検に入り、消火設備の点検を行っている。非常食はホーム管理者と総務部で管理している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年に2回の避難訓練計画書を提出時に消防署の職員と連携、警察官は知り合いと、地域の派出所の方が訪問に来てくれる時に管理者が連携している。	○	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	コロナ対応で、大勢が集まる場所へ参加できていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域活動への参加が、コロナ対応で一切できていない。	/	/	/	事業所は地域のケア拠点として、地域住民から認識され、管理者等は地域住民から認知症等の相談を受けるとともに、電話相談が寄せられることもあり、快く対応をしている。感染対策が続き、地域行事の参加やボランティアの受け入れは行われていない。日頃から、市行政や地域包括支援センター、小松中学校、駐在所などの関係機関との連携が図られている。感染対策もあり、地域活動の協働までには至っておらず、今後は感染状況を見計らいながら、地域のケア拠点としての活動が再開されることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	近所の方が相談に来られる事が、対応している。入居相談の時に、他施設やサービスの情報も提供している。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ対応で地域の集まりは出来ていないが、災害時に避難場所として開放する事を、地域の方に提案している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	外部の方がホーム内に入れられないため、交流が出来ていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ対応で、大勢が集まる場所へ参加できていない。	/	/	○	